東京都立大学 都市環境学部 観光科学科

東京都立大学 大学院 都市環境科学研究科 観光科学域

2021

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

ANNUAL REPORT

Department of Tourism Science, Tokyo Metropolitan University

観光を科学する

TOURISM SCIENCE

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

ANNUAL REPORT 2021

観光を科学する TOURISM SCIENCE

東京都立大学 都市環境学部 観光科学科
東京都立大学大学院 都市環境科学研究科 観光科学域

1 Staff スタッフ紹介

2 Research Summary 研究概要
02 2-1. 自然環境マネジメント領域
05 2-2. 地域計画・マネジメント領域
11 2-3. 行動・経営科学領域

3 Research Result 研究成果
15 3-1. 自然環境マネジメント領域
17 3-2. 地域計画・マネジメント領域
20 3-3. 行動・経営科学領域

4 Specific academic research 特定学術研究
22 4-1. 自然環境マネジメント領域
23 4-2. 地域計画・マネジメント領域
25 4-3. 行動・経営科学領域

5 Student education 学生教育
26 5-1. 所属学生
5-2. 研究室への配属
5-3. 学位論文
–博士論文
27 –修士論文
28 –学位論文

6 Social contributions 社会貢献
30 6-1. 自然環境マネジメント領域
31 6-2. 地域計画・マネジメント領域
33 6-3. 行動・経営科学領域

7 Awards, etc. 受賞等
34 7-1. 自然環境マネジメント領域
7-2. 地域計画・マネジメント領域
7-3. 行動・経営科学領域

01 Staff スタッフ紹介

自然環境・マネジメント領域

Shinya NUMATA
沼田　真也
教授

学位　博士（理学）・東京都立大学
専門　熱帯生物学、都市生態学、自然保護地域管理

Takaaki NIHEI
仁平　尊明
教授

学位　筑波大学
専門　地理学

Takeshi OSAWA
大澤　剛士
准教授

学位　博士（理学）・神戸大学
専門　生物多様性情報学・生態系管理学・保全科学

Etsuro TAKAGI
高木　悦郎
助教

学位　博士（農学）・東京大学
専門　森林動物学、個体群生態学、ナチュラルヒストリー

Yuki SAKAMOTO
坂本　優紀
助教

学位　博士（理学）・筑波大学
専門　人文地理学（観光地理学、文化地理学）

Ai SUZUKI
鈴木　愛
特任助教

学位　博士（地域研究）（京都大学）
専門　保全生物学

地域計画・マネジメント領域

Tetsuo SHIMIZU
清水　哲夫
教授

学位　博士（工学）・東京工業大学
専門　交通学、観光政策学、観光計画学

Susumu KAWAHARA
川原　晋
教授

学位　博士（工学）・早稲田大学
専門　観光まちづくり、観光地域マネジメント、都市・地域デザイン

Yu OKAMURA
岡村　祐
准教授

学位　博士（工学）・東京大学
専門　都市デザイン、都市計画、観光まちづくり、観光地域史

Mitsuru NODA
野田　満
助教

学位　博士（工学）・早稲田大学
専門　農村計画、都市・地域デザイン、観光まちづくり

Yuki OHIRA
大平　悠季
助教

学位　博士（工学）・神戸大学
専門　土木計画、交通計画、都市・地域計画

Norie HIRATA
平田　徳恵
特任助教

学位　博士（観光科学）・首都大学東京
専門　地域ブランディング、観光地域づくり、空間デザイン、環境色彩

行動・経営科学領域

Kenro AIHARA
相原　健郎
教授

学位　博士（工学）・東京大学
専門　情報工学、行動把握・行動変容、サイバーフィジカルシステム、クラウドセンシング

Yohei KURATA
倉田　洋平
准教授

学位　米国メイン州立大学
専門　観光情報学、空間情報科学

Katsuya HIHARA
日原　勝也
准教授

学位　博士（経営学）・筑波大学
専門　ミクロ経済学、経営学、観光政策、交通政策

Wu Lingling
Wu Lingling
准教授

学位　博士・広島大学
専門　観光マーケティング

Yu OGASAWARA
小笠原　悠
助教

学位　博士（工学）・弘前大学
専門　社会システム工学

Makiko ASO
阿曽　真紀子
特任助教

学位　修士（観光学）・琉球大学
経営学修士（専門職・MBA）・京都大学
専門　サービスマーケティング・観光教育・地域経営

都市域の生物多様性管理に関する研究

沼田　真也　Shinya NUMATA　　髙木　悦郎　Etsuro TAKAGI

都市住民と多様な生物の共存に必要となる条件を明らかにするため、都市の生物がもたらす負の生態系サービス（ディスサービス）に注目し、都市住民の生物や自然的景観に対する嗜好性やディスサービスに対する受容性、そしてそれらを緩和することが可能な要因（幼少期自然体験等）について検討を進めている。本年度は、幼少期の自然体験や自然に対する負の感情（嫌悪、恐怖）が動物の好き嫌いや成人の野外アクティビティへの選好に与える影響について分析した（大久保翔太・卒業論文）。

熱帯雨林の野生生物観光

沼田　真也　Shinya NUMATA　　髙木　悦郎　Etsuro TAKAGI

熱帯雨林を訪れる観光客の多くは野生生物観察に対する関心や期待は大きいものの、通常、熱帯雨林では野生生物は密度が低く、夜行性のものが多いため、観察するのは簡単ではない。そのため、野生生物と観光客との接点は小さく、野生生物観光としての満足度はあまり高くない。そこで、東南アジア熱帯雨林において、野生生物の生態学的研究手法を活用した観光アトラクションプログラム（バーチャルハンティングプログラム：VH)の開発を進めている。2021年度はエンダウロンピン国立公園において実施してきた野生生物映像データを分析し、人為撹乱が野生生物の日周活動に与える影響を議論した。また、エンダウロンピン国立公園およびタマンネガラ（国立公園）の公演管理者とVHの事業化や、新型コロナウイルス感染症拡大が収束した後の行動計画について議論を行った。

国産蜂蜜の生産量に関する研究

沼田　真也　Shinya NUMATA

蜂蜜はミツバチが植物の花蜜を集め、分解・濃縮したもので、世界中で食用とされている。また、ご当地蜂蜜や養蜂体験を活用した観光に関する取り組みも注目されている。蜂蜜は極めて身近な食品であるにもかかわらず、日本国内における蜂蜜生産に関する情報は極めて限られている。一方で、蜂蜜生産量には年変動があり、その年変動の大きさや動きは蜜源植物により異なること、利用する蜜源植物種は地理的に異なる。そこで、日本の蜂蜜生産に関する現状を評価し、その変動に影響を与える要因を検討した。その結果、蜂蜜生産に関するデータでは、法律により全国統一で養蜂家数と蜂群数が集計されていた一方で、蜂蜜生産量と蜜源面積は都道府県により集計の有無、集計方法、集計対象が異なることが明らかとなった。国産蜂蜜生産を振興するには、全国で統一したデータを集計する必要が示唆された（那珂知美・卒業論文）。

野生動物観光において人々が期待する体験

沼田　真也　Shinya NUMATA

野生動物観光において多くの観光客は大型でカリスマ性のある動物種、希少な種野生動物に直接遭遇することを求め、その生息地を訪れる。しかし、観光客は野生生物観光においてどのような体験を期待しているのであろうか？野生生物観察の嗜好、態度に関する研究はあるものの、野生生物観光で期待する体験やそれらに影響する要因についてはほとんど分かっていない。そこで、マレーシアの熱帯雨林に出現する野生動物を用いて、マレーシア人学生が野生動物観光において期待する体験と動物種に対する認識、好き嫌い、リスク認知を評価し、人々が野生動物観光で期待する体験について議論した。その結果、人々が野生動物観光で期待する体験は動物種によって大きく変わらず、どの動物種も距離の近い体験を期待されていた。そのため、実際に訪れていない人々は遭遇によって生じるリスクを考慮せずに、より直接的な野生動物との体験を求めることが示唆された（齊藤凌太・卒業論文）。

地理学をベースにした自然ツーリズムに関する研究のための方法論の確立

仁平　尊明　Takaaki NIHEI

上記の課題は、この大学での私の業務内容（採用条件）である。それについて、2021年度は、地図のデジタル化の方法に関する研究を行った。都市環境学部観光科学科の地理学教室を引き継いだ時、研究室には大量の地図が保管されてあった。それらは全国の地形図の他、現地調査で使用された大縮尺の計画図等である。前任者は２つの研究室を使用していたが、現在は１つである。（なお、私はこれまで３つの大学で働いてきたが、いずれも建物が新しくなるほど、研究室は狭くなった。地理学者が広い部屋を使えたのは昔のことである。その古い分野が大学で教えられるべき理由を私達は考える必要がある。）　その空間を有効に、且つ安全に利用できるように、地図のデジタル化に関する研究を進めた。それはオープンソースの技術に基づいたものであり、具体的な方法は分掌にまとめている途中である。

自然史資料に基づく生物多様性情報学

大澤　剛士　Takeshi OSAWA

標本や観察情報、市民参加型調査等、必ずしも厳密な調査デザインに基づいて取得されたわけではない各種自然史資料の収集、整理、さらには有効な利用方法についての検討を行っている。本年度は、行政が主導し、地域住民と専門家の協力によって実施された市民参加型調査データを利用し、侵略的外来生物であるクビアカツヤカミキリの分布拡大予測を実施した（Osawa et al. 2022 Man,Biol.Inv）。

自然の恵み「生態系サービス」の視覚化、定量に向けた研究

大澤　剛士　Takeshi OSAWA

自然環境、半自然環境から得られる人間への利益を「生態系サービス」という。生態系サービスには既に人間が認識し、積極的に利用しているものから、いまだ人間が気づいていない潜在的なものまで多種多様なものがあると考えられている。これら生態系サービスについて、潜在的な価値の捕捉、認識されながらも定量評価がなされていないサービスの定量化に向けた検討を行っている。本年は、半自然環境である水田が持つ災害緩和機能（Osawa et al. 2021 Int. J. Dis.Reduction）、同じ条件の水田が湿地として高いハビタットとしての価値を持つこと（Osawa et al. 2021 Sci.Rep.)を明らかにした。

水田に浸水することで、市街地への浸水が減ること、さらに水を溜めておくことで、これ以上の浸水拡大を防ぐ等の効果が期待できる

写真は実際の調査地ではなく、イメージ。
国土地理院　地理院地図（https://maps.gsi.go.jp）より取得

外来生物の管理に関する研究

大澤　剛士　Takeshi OSAWA

国際貿易の発展等に伴い、現在、日本には意図的、非意図的に人間によって国外から持ち込まれた生物が多数生息している。世界自然遺産として国際的に知られる小笠原諸島も、観光客の増加をはじめとする人間活動の活発化に伴い、外来生物による様々な被害が顕在化している地域である。これら外来生物による被害を定量把握するとともに、対象種の駆除を含めた適切な管理手法を提案することを目的とした研究に取り組んでいる。本年度は、園芸由来の外来植物を対象に、その侵略性と観光客にとっての魅力を同時に評価し、侵略性が低く、観光客にとって魅力があるものは観光資源として活用できる可能性を示した（Onozuka & Osawa 2022 Ecol.Econ.）。

昆虫の個体群動態と観光の関係

高木　悦郎　Etsuro TAKAGI

昆虫は，膨大な種数，個体数，および生物量を誇り，地球上のあらゆる地域に生息し，生態系において様々な重要な役割を担っている．また，世界中で一般的に認知度や好感度の低い生物であり，日本を除いて観光対象となることはほとんどない．

昆虫が持つ特徴の一つに，高い生態系エンジニアリング能がある．様々な昆虫が，劇的に生態系を変化させる．最近，この昆虫の生態系エンジニアリング能による生態系改変が，人間に与える文化的影響が注目されつつある．しかし，観光に及ぼす影響に関する知見はほぼない．

そこで本研究課題では，特に，昆虫の生態系エンジニアリング能に注目して，1）昆虫が大発生する要因，および 2）昆虫の大発生が起こった際に観光に及ぼす影響を明らかにすることを目的として，野外調査，野外実験，および室内実験を行っている．

今年度は，University of Minnesotaらのグループとの共同研究と，東京大学らのグループとの共同研究による成果が国際英文誌にて公表された．

音楽実践によるローカリティの構築プロセスの解明

坂本　優紀　Yuki SAKAMOTO

情報技術の発展により音楽は持ち運び可能となった。そのため、音楽の商品化が志向されるとともに、特定の地域のみで実践されていた音楽のグローバルな展開がみられる。こうした状況により、音楽と地域の関係や音楽における地域性への問いが明瞭に表出する。

本研究課題は音楽のローカリティが構築されるプロセスに着目し、音楽と地域の関係を検討することを目的とする。本研究では音楽と地域の関係はアプリオリなものではなく、音楽の実践者により構築される関係として検討する。調査は、国内で開催されている外来音楽イベントを対象に実施している。本年度は、福島県川俣町（坂本 2022理学評論）と富山県南砺市，長野県松本市の事例を調査した。今後は現地調査を進めるとともに、三事例を比較し、議論を深めていく予定である。

観光地における MaaS 展開戦略に関する研究

清水　哲夫　Tetsuo SHIMIZU　　大平　悠季　Yuki OHIRA

観光地において Mobility as a Serviceを展開するための戦略策定に資する次の研究を実施した．(1)日本で実施されている MaaS実証事業について，都市特性とサービス形態の視点から類型化を行い，それら類型と社会実装の有無や事業の取り組み方との関係性を分析し，社会実装のキーポイントや障壁を把握した．(2)MaaSの導入方法・戦略を議論するための評価指標として，交通サービスの需要と供給のミスマッチのレベルを簡便に表現でき，かつ政策導入効果を評価できる観光地版の交通需給ギャップ指標を提案し，複数の人口滞留・交通流動データを組み合わせて，指標をゾーン別に算定する実用的な方法論を開発した．

ビッグデータを用いた観光・交通政策の評価手法に関する研究

清水　哲夫　Tetsuo SHIMIZU　　大平　悠季　Yuki OHIRA

人流・消費・検索・SNSビッグデータを利用して，観光や交通の政策効果を評価する手法開発に資する次の研究を実施した．(1)COVID-19の感染拡大防止対策等の介入が宿泊業に及ぼした影響を定量的に把握するために，複数の統計・ビッグデータの相互の整合性を統計的に検証した上で，因果推論法である Causal Impactを用いた分析フレームを提案した．(2)日本への中国人旅行者のオンラインレストランレビューを Latent Dirichlet Allocation(LDA)モデルを用いて分析し，その嗜好，ニーズ，不満，課題を把握する方法論を開発した．(3)交通流動の代替データとしての経路検索データを活用して，自治体の自転車関連政策の効果を把握する方法論を試行的に検討した．

観光振興に資する鉄道利用促進方策に関する研究

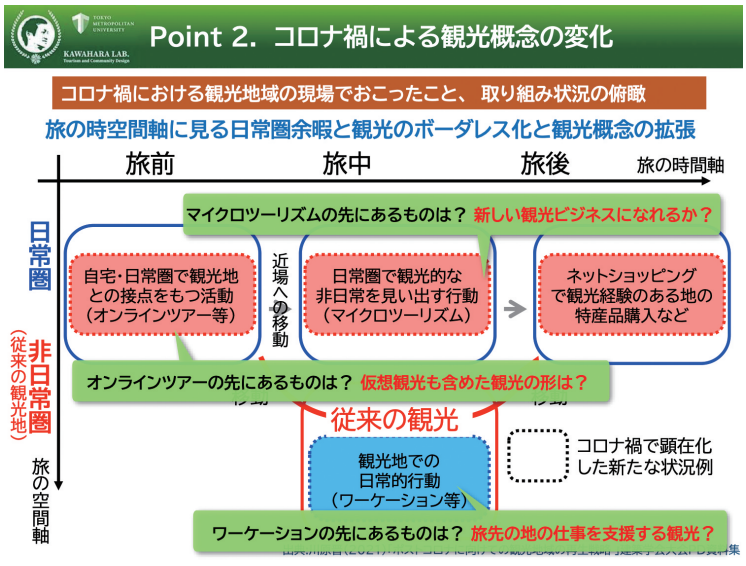
清水　哲夫　Tetsuo SHIMIZU　　大平　悠季　Yuki OHIRA

鉄道利用促進を通じた地域の観光振興に資する次の研究を実施した．(1)地方部における新幹線開業区間の利用促進施策を検討するために，全国幹線旅客純流動調査のデータを用いて，東北・北陸・九州新幹線の延伸による沿線地域の都市間交通需要特性変化を詳細に分析した．(2)地方私鉄が観光列車を導入する際の基礎的知見を得るために，全国の観光列車の導入状況を詳細に把握するとともに，観光列車を特徴づけるサービスや車両デザインの要素の価値をコンジョイント分析により明らかにした．

地域観光プランニング：観光まちづくりの計画技術の体系化研究

川原　晋　Susumu KAWAHARA　　岡村　祐　Yu OKAMURA

観光まちづくりの計画技術の体系化をめざして、日本建築学会の小委員会として活動している研究である。行政の観光計画の対象がソフト中心となっている状況に対して、より質の高い観光「エリア」を作っていくための景観や公共空間の魅力化といったハードと、観光コンテンツの開発などのソフトが連動した計画論をめざしている。それぞれに関わる先進事例の調査をもとに、従来の観光計画や都市計画・まちづくりとの関係のなかでポジショニングをしつつ、手法の要点を整理している。



具体的には、地区スケールで環境・空間改善や、地理的・空間的・人的環境の中で観光資源をとらえることを重視し、実効性ある公民連携の取り組みとするための、フロートビジョンと実行チームのつくり方、社会実験を通しての事業化といったプロセスデザイン、持続的な観光地経営のためのエリアマネジメント組織や観光財源確保の方法等である。

2021年度は、これまで小委員会が議論してきた地域観光プランニングの考え方をもとにコロナ禍における観光動向を捉えながら、観光を活かした地域再生概念の再構築に向けて議論をした。日本建築学会大会において、「ポストコロナに向けての観光地域の再生戦略」と題したパネルディスカッションを主催した。

観光客の一部が地域に貢献する粘着力の強い関係人口になるには、楽しい観光から地域のしごとを支援するような観光まで、観光客が地域に関わる段階性を意識した観光コンテンツを用意する重要性を確認し、生業観光はこれに親和性があることが示唆された。

また、観光業と他の産業との事業者における地域内連携の意義は、ビジネス・エコシステムとして大きな収益構造を生む方向と、広域流通が止まるような非常時における地域経済循環のサブシステムとして観光を位置づける方向の２つがあることを確認した。このとき、宿泊施設は観光に限らない地域のインフラとして重要であることが示唆された。

●地域観光プランニング研究　紹介 HP
https://www.comp.tmu.ac.jp/ssm/study/theme/sustinable-destination-planning.html

里山基盤ものづくりの川上から川下までの事業者連携による観光まちづくり

川原　晋　Susumu KAWAHARA　　平田　徳恵　Norie HIRATA

林業や和紙といった里山基盤のものづくり産業や文化、職人を有する埼玉県ときがわ町において、自然と共生する暮らしの価値観に共感する人を対象に、木や紙を利用したものづくりの川上（材料づくり）から川下（商品づくり）までの物語に触れつつ、DIY体験を楽しんでもらう観光コンテンツの造成を行うプロジェクトである。このプロジェクトを通して、これまで接点の薄かった職人さんや観光やまちづくりの専門家、行政との事業連携を行い、木材利用の新たな出口や、多面的な地域振興につないでいくことを目指している。

2020年度は、観光庁の「『誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成』における実施事業」を活用して、この土地を訪れた方に、地元の職人さんたちと一緒になって地域をめぐりつつ、木材や和紙等を用いて自分でつくった名産品を持ち帰る３種類のワークショップを合計１４回試行した。林業家、製材店、家具職人、組子職人、和紙職人、工務店、マッチングコーディネーター、デザイナー、地域プロデューサー、地域商社、行政、大学等の連携が実現している。川原研は、ワークショップの企画や磨き上げの支援、解説ツールやホームページの制作、コロナ禍の中で一般客を公募するのが難しい状況の中でのモニター、支払い意思額調査などを行った。職人側、参加者側双方の満足度は高く、日帰りツアーとしては比較的高額の支払い意思額を提示した参加者も多く、連携強化の意欲向上につながった。

2021年度は、観光庁の「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」を活用して、移住者を中心とする職人へのインタビューをまとめた既存資料「職人図鑑」と、川原研究室で実施した代々地域で林業に携わる「地元の人」へのインタビュー資料をもとに、「ときがわ町 山の恵みフェノロジーカレンダー」を作成した。この資料は、里山の地域資源をそこに携わる人に着目しながら歳時記として整理するとともに、その地域資源に関連するものづくりや食の川上から川下までのさまざまなストーリーをまとめたことに特色がある。

また、昨年に引き続き、ときがわネットワークのメンバーが造成した観光コンテンツの事業検証のために、支払い意思額調査を行った。

この知見を生かし、「目的達成や商品磨き上げに活かせる事業検証方法とは？」と題して、観光庁の域内連携実証事業の成果報告会で講演会を行い、手引き書に掲載された。

●「ときがわ森の教室：里山ものづくりの川上から川下までを味わう観光！」 HP
http://tokigawa-kyoshitsu.jp

●川原 晋「目的達成や商品磨き上げに活かせる事業検証方法とは？」手引き書, PP.45-47執筆,
https://www.mlit.go.jp/kankocho/ikinai-renkei.html

フエ皇帝陵周辺集落との協働による歴史的環境のマネジメント手法としてのエコスタディツアー開発

川原　晋　　Susumu KAWAHARA

ベトナム最後の王朝、阮朝の歴代皇帝陵は、ユネスコ世界遺産「フエの建造物群」の構成遺産として認定されている。筆者らの研究チームは、建造物のみならず、周辺の自然環境や集落、水田を含めたランドスケープが、中国の風水思想を土台にベトナムの気候風土に合わせて独自に工夫されて計画されていたことを明らかにしてきた。しかし、ベトナム戦争による被害や、近年の農業や林業形態の変化や、地域外資本による観光目的の空間改変によって、その景観や水利システムが壊されつつある。

そこで、筆者らの日本調査チームでは、集落住民や政府関係者と皇帝陵の計画思想を共有し、皇帝陵の歴史的環境の保全と適切な観光活用のために、2017年よりエコスタディツアーを試行してきた。2020年度より現地ツアー会社を設立し実践段階である。

コロナ禍においても動きを止めないために、現地ツアーと、これを Live中継するオンラインツアーとを同時におこなう「ハイブリッドツアー」に挑戦した。ドローンによる空中からのLive映像の併用や、オンライン参加者向けのzoom画面共有を活用した多様な資料の提示と解説など、ハイブリッドツアーならではの価値をつくる方法を試行した。その結果、地域の環境価値を理解するエコツーリズムに基づくエコツアーとの親和性や有用性について、多くの前向きな意見を確認できた。

今後は、現ツアーの前後に体験するオンラインツアーの意義を意識しながらハイブリッドツアーを磨き上げるとともに、その有用性を確認していく。

●「嘉隆帝陵エコスタディーツアーとオンラインツアーの組合せに見るエコツーリズムとの親和性」日本建築学会大会 選抜梗概 ,2021.09

図　環境理解用に作成したドローン撮影３６０度画像ウェブコンテンツ
fig. 360° image web content photographed by a drone for environmental understanding
Created by Nguyen Quang Huy (Hue University of Science)

プロジェクターマッピング模型システムを用いた新たな地域解説展示・教育の方法の開発

川原　晋　　Susumu KAWAHARA

近年、模型に多様な主題地図をプロジェクターで投影するプロジェクターマッピング模型システム（P＋MMシステム）が博物館等で導入されている。投影する画像は PCで自由に作成できるので多様な活用の仕方ができるはずであるが、各地での利用の現状は、投影コンテンツの更新はあまり行われず、一方的な解説展示ツールの域を出ていない。そこで、リアルタイムに模型に書き込み投影をしたり、多くの人がコンテンツを作成し、持ち込み投影できるような利用方法が可能になるように、P＋MMシステムのメーカーと共同研究をすすめ、民間ガイド等も活用できる解説展示ツールとして新たな利用や教育ツールとしての活用方法を研究している。

2020年度は、観光科学科の観光計画・デザイン演習において、学生が作成した主題図を投影し議論を行う方法を試行した。

2021年度は、八王子市役所との共同研究により、桑都日本日本遺産センター　八王子博物館の展示作品として、「八王子産食材でつくるお酒とおつまみ」を学生有志と制作した。この投影作品の特徴は、人々が興味を持ちやすい「食事」を入り口に、八王子の日本遺産の構成文化財となっている資源やストーリーを表現した点である。また、この展示作品をを用いて地元生産者が販促に活用できるようなワークショップ方法を提案した。

https://www.comp.tmu.ac.jp/ssm/study/theme/Tourism-Applications-of-Technology.html

大田クリエイティブタウンの構想と実践

岡村　祐　　Yu OKAMURA

大田区は世界に負けない技術を誇るモノづくりと豊かで楽しい暮らしが重なり合うまちである。地域自ら持続的に価値を育む「クリエイティブタウン」という将来像実現に向けて、大学（東京都立大学、横浜国立大学）、観光協会、地元工業者等が中心となり 2017年 4月に（一社）おおたクリエイティブタウンセンターを設立した。これをプラットフォームとして各種プロジェクトを展開している。2021年度は、例年実施している期間限定で工場を一斉公開する「おおたオープンファクトリー」をツアー形式で実施した。一方、観光庁「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」に採択され、ターゲットを絞ったツアー内容の考案、ガイドの養成などを行った。

都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性

岡村　祐　　Yu OKAMURA

本研究は、「散策路事業（＝散策路の整備・設定や、まち歩きイベントの開催）」が、健康、レクリエーション、モビリティ等、散策する市民のライフスタイルの変化から生み出されるプッシュ要因と、郊外・行楽地開発、自然・文化資源の保全活用、コミュニティ形成等、来訪者を受け入れる地域側が期待する環境形成につながるプル要因から成り立つという仮説のもと、第一に、「散策路事業」の通史研究（時代区分と各時代の特徴解明 ）、第二に、特定地域における散策路事業の事例研究、第三に、「暮らし体験型散策路」の計画提案・実践・評価を研究課題として掲げている。2021年度は、東京都が過去に実施してきた散策路事業や、埼玉県飯能市における住宅団地建設に伴う新規整備散策路と既存散策路を一体的に捉えた都市ビジョンに関する論文投稿を行った。また、神奈川県茅ヶ崎市において、一級河川小出川沿いのフットパスの提案を行った。科学研究費基盤研究（C）の助成を受けて実施した。

ポストコロナに向けての観光地域の再生戦略

岡村　祐　　Yu OKAMURA　　川原　晋　　Susumu KAWAHARA

2020年春以降、新型コロナの感染拡大により国内観光地域は、未曾有の危機に直面しているものの、近隣からの誘客に注力するマイクロツーリズム、三密を避けリモートワークを活用し働きながら余暇を取るワーケーション、ICT技術を活用したバーチャル観光など、試行錯誤が続けられている。一方、同年夏から冬にかけては、旅行促進政策が奏功し全国的には国内旅行者数は戻りつつある。この一連の動きは、地域を支える産業としての観光の重要性は勿論のこと、生活者にとっての観光（＝非日常生活圏での余暇活動）の意義が再確認された。日本建築学会「持続可能な観光地形成小委員会」は、これまで公民連携論、地域マネジメント論、政策論等を視座として、都市・地域計画と観光事業の融合を目指した「地域観光プランニング」の詳細化・実装化に関する研究を進めてきた。また、過度な観光地化＝オーバーツーリズムに直面する観光地域のマネジメントに関する知見を蓄積してきた。SDGsも含めて、このような観光地域の持続可能性に関する議論が熱を帯びてきたさなか起きたのが、新型コロナのパンデミックである。計画学の立場から with／postコロナにおける観光地域再生に向けて、日本建築学会大会時にパネルディスカッションを主催し、①コロナ禍における観光地域の取り組み状況を俯瞰しつつ、観光地域の現場で実際何が起きているのか、②コロナ前からの観光地域の取り組みや過去の教訓から postコロナに向けての示唆を得るとともに、現段階で国や地域がどのような戦略を有し、旅行者はどのように受け止めているのか、③「復旧期」に当たる現在の取り組みと観光地域の将来ビジョンとの関係性や、postコロナにおける観光の概念の再構築など、観光地域の再生戦略として必要なことは何か議論した。

「関係人口」の再定義を踏まえた過疎地域の計画論構築

野田　満　Mitsuru NODA

本研究は、これまで政策的に重要視されながらも明確に定義付けられてこなかった「関係人口」概念の再定義及び計画論への展開を試みるものである。具体的には、各地の地域づくりへの参与視察を通したヒアリング調査、及びその分析による1）客観的指標に基づく関係人口の構造把握、2）移住を前提としない関係人口のモデル化と検証を行う。その上で、3）関係人口の再定義及びそれを踏まえた過疎地域の計画論を構築する。
2021年度も昨年に引き続き、兵庫県洲本市竹原地区、高知県いの町神谷北地区等における地域づくりの取り組み支援を進めると共に、様々なかたちで議論されている関係人口の概念整理を行なった。その成果の一部は、筑波書房より2022年4月に発刊された「農村計画研究レビュー2022」において、他テーマのレビューと併せて掲載されている。
なお本研究は文科省科研費（若手研究）「「関係人口」の再定義を踏まえた過疎地域の計画論構築 -地域づくりの実践を通して」、トヨタ自動車株式会社トヨタ環境活動助成プログラム国内小規模プロジェクト：「環境教育 ×アウトドア」のコミュニケーションツールの制作を通した「参加型環境保全観光」、一般財団法人高知放送エヌ・ピー・オー・高齢者支援基金「田舎文化の継承と高齢者の生きがいづくりに向けた「集落史」の編纂と活用」を受けて進められたものである。

訪日外国人の訪問スポット組合せに基づく観光選好の分析

大平　悠季　Yuki OHIRA

COVID-19以前に多くの外国人観光客が日本を訪れる中，その旅行形態は個別手配が7割以上と，団体ツアーや個人向け観光パッケージを大きく上回った．このことは，外国人の日本観光における興味やニーズがパッケージ化され得るような画一的なものではなく多様化・個別化していることを示唆しており，これらのニーズに的確に答えることが，今後の観光政策上の重要課題の1つといえる．
本研究は，経験豊富なボランティアガイドの協力の下で収集された，訪日外国人観光客の詳細なガイド実績データを用いる．本データには，個々の外国人観光客のニーズに応えた結果として実現した，首都圏エリアでの1日以内のツアーで訪問されたスポットが逐一記録されている．本研究は，ガイド実績データにおける訪問スポットの組合せを分析することにより，旅行者の観光に対する選好ををを抽出することを試みた．結果として，約4200の旅行者サンプルを6種類の観光選好に類型化することができた．

都市郊外の観光・レクリエーション地域における交通手段選択要因の分析

大平　悠季　Yuki OHIRA　清水　哲夫　Tetsuo SHIMIZU

公共交通のサービスレベルの維持が課題となる大都市郊外において，観光・レクリエーション計画と地域交通との連携の可能性を検証するための基礎的な知見を得ることを目的とし，自然的な環境に整備された散策路を利用したレクリエーション活動に注目しその交通手段の選好における影響要因を把握するための選好意識調査を行った．対象は都心から30-50kmに位置する郊外レクリエーションエリアとし，公共交通の選択要因として自動車の保有や利用の状況といった個人の属性に加え，アクセス公共交通の運行頻度や料金などのサービス水準，散策路の始終点の設定，散策後に楽しめるアクティビティの設定，郊外レクリエーションエリアの公共交通でのアクセス性と郊外住宅地との位置関係を整理した上で，webアンケートにより仮想条件下での選好意識を調査した．

訪問順序を考慮した外国人観光客の周遊パターンの解明

大平　悠季　Yuki OHIRA　清水　哲夫　Tetsuo SHIMIZU

本研究では，訪日外国人観光客の国内周遊パターンについて，訪問順序を考慮した類型化を行い，その変遷を考察した．順序を考慮した類型化手法として，配列アライメント手法を応用したクラスタリング手法を用いた．これは，訪日外国人の周遊行動を文字列として表現し，それらの編集操作に伴う編集距離の概念に空間上の距離を反映した指標を非類似度指標として，階層型クラスタリングを行うものである．それを訪日外国人流動データに適用し，周遊パターンの変遷を国際線の就航状況と照合したところ，就航状況の変化に伴う周遊パターンの変化が確認できた．韓国人は単独県への訪問パターンが主であり，LCC就航によりその傾向は顕著になった．台湾人・香港人では就航・増便に伴い，周遊範囲が空港所在県並びに隣接県に集中する傾向が一部で確認できた．

注意機構を用いた Graph Convolutional Networks による 短期的将来滞在人口推定

大平　悠季　Yuki OHIRA　　清水　哲夫　Tetsuo SHIMIZU

近年，年空間で収集されている多種多様なビッグデータの利活用に対する関心が高まっている．特に短期的な将来における滞在人口の推定は，様々な都市政策において参照される重要な情報となる．本研究では都市に偏在する情報に基づき複数のグラフを作成し，Graph Convolutional Networksを使用することで，現実の都市空間の情報に基づいた空間的相関を多面的に把握する予測手法を提案する．さらに，天候や時刻といった外的要因を考慮した注意機構を設けることで，予測時の状況に基づ き複数の空間的関連性に対する重要度を動的に決定することを試みる．携帯端末より取得された人口統計ビッグデータを使用し，将来滞在人口数の推定精度の検証を行ったところ，提案手法は既存手法と比較して優れた推定精度を示した．加えて，注意機構によって計算された重みを可視化することで，提案手法が空間的関連性に対する重要度を適切に変更していることを示した．

持続可能な観光地づくりのための観光政策立案実践人材育成

平田　徳恵　Norie HIRATA

持続的な観光まちづくりのためには，観光の経営と地域づくり・地域資源マネジメントを両輪で連携しながらの実践が必要である。自治体や地域の事業者などの多主体で，各地の地域創生を実現していく官民協働での観光地域づくりを進めるためには，地域に適切な政策立案やこれらとの整合性のある施策および事業立案のできる知識を持つ観光政策立案実践人材が必要となる。この仮説のもと，地域づくり・地域資源マネジメントに関わる地域のキーパーソンに必要となる知識や技術について調査し、整理を行った。また、地域資源マネジメント人材により地域資源調査および地域住民への周知が実践的に展開されている夷隅地域を事例として抽出し，地域資源の保存・再生・活用技術の地域内共有について整理分析し学会大会にて口頭発表を行った。最終的に観光政策立案実践人材のための教育プログラムの提案に向け研究を進めている。なお本研究は，科研費若手研究を受け実施した。

写真:「ときがわネットワーク」事業の紹介（左：広報ときがわ0310より）・グリーンウッドワークの様子（右：2021/12/5撮影）

観光コンテンツ造成事業の事業評価アンケート調査における支払意思額調査等の導入意義

平田　徳恵　Norie HIRATA　　川原　晋　Susumu KAWAHARA

林業や和紙等の里山基盤のものづくり産業や文化、職人を有する埼玉県ときがわ町において、自然共生暮らしの価値観の共感者に向け、ものづくりの川上（原料）から川下（材料加工 / 消費）までの物語に触れつつ、DIY体験を楽しむ観光コンテンツの造成および観光資源の磨き上げ支援を行った。このプロジェクトを通し、これまで接点が少なかった各業種の職人、観光やまちづくりの専門家、行政等と事業連携し、多面的な地域振興につなぐことを目指している。

2021年度は、観光庁「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」により、８種のものづくり体験ワークショップを現地にて試行した。林業や製材、家具や組子、和紙の職人、デザイナー、地域商社、行政、大学等の連携が実現している。本事業において、資源磨き上げの支援および体験ワークショップ参加者へ向けたアンケートの設計と実施により、少人数回答における支払い意思額調査等導入の意義について整理分析した。（協力学生：海老沢結）

定点計測手法の高度化とデータ解析に基づく流動把握手法に関する研究

相原　健郎　Kenro AIHARA

本研究は、地域への流出入と地域内での流動把握を各個体の動きの集約により実現する「ミクロ流動把握」の実現を目指すなかで進められているものである。ここでは自動車の流動に関して、その流動把握のために、都市の複数地点に設置するカメラによる車両認識とその記録・収集・解析の方法論の提案と実現を目的としている。システムはネットワークカメラと処理用 PCおよびデータ転送用のネットワーク機器で構成され、リアルタイムで認識結果がクラウドに集約される。2022年度は、2つの自治体の協力を得て、実際の複数の地点にこれらのプロトタイプシステムを設置し、試行を実施した。数ヶ月にわたる連続運用にて計測を実施し、動作安定性や精度、および、設置上の課題等を抽出した。

オンラインツアーへのニーズと応用可能性についての研究

倉田　陽平　Yohei KURATA　鈴木　美樹　Miki SUZUKI　朱逸雯　Zhu Yiwen
堀　健一朗　Kennichiro HORI　吉田　伊武貴　Ibuki YOSHIDA　谷藤　優成　Masana TANIFUJI

コロナ禍において急速に台頭したオンラインツアーについてそのニーズや社会的意義や対象地の特性は何か，HISのオンラインツアー参加者のレビューへのテキストマイニングや参与観察から明らかにするとともに，またオンラインツアーの普及した現在における新たな旅の形態としての「代行旅行」というビジネスの実現可能性を模索し，代行旅行は依頼者にとっては健康上の理由等で訪れられない場所の現在を知ることができ，代行者にとっては予期せず価値ある旅ができるきっかけとなる可能性があることを見出した．

失敗談ツイートのテキスト分析による地域固有の旅行内失敗リスクの分析

倉田　陽平　Yohei KURATA　吉田　伊武貴 Ibuki YOSHIDA

機械学習（BERT）により生成した失敗談分類器を膨大な位置情報ツイートに対し適用し，静岡県・北海道を例に地域固有の旅行内失敗リスクの抽出が可能であることを実証した．この結果，静岡県内では富士山の眺望が雲で損なわれるリスクや北海道ではスープカレーを辛すぎにしてしまうリスクや，冬に車の鍵穴が凍結してしまうリスクが抽出され，旅行者にとっての教訓がツイートデータからシステマティックに得られることが明らかになった．

シニア旅行の動機と阻害要因

倉田　陽平　Yohei KURATA　鈴木　美樹　Miki SUZUKI

Pearce（1988）の Travel career ladder仮説では人は旅行経験を積んでいけば旅行の動機は自己実現に向かって高次化していくと唱えられていたが，都立大学のプレミアムカレッジ生を対象にした調査から，実際はむしろ逆で，若い頃の旅行の方が高次の動機が重視されること，高齢の旅行では健康・安全といった低次の欲求が高まるようになることが明らかになった．

観光・交通分野におけるリスク分配契約に関する研究

日原　勝也　Katsuya HIHARA

航空会社と空港の関係のように、異業種の主体間の関係の中には、対立関係と協調関係が共存する複雑で多面的な構造を有するものがあり、契約理論、ゲーム理論等の観点から興味深い。我が国でも、地方空港が航空会社と路線収入のリスクを分配する契約例が現れ（能登空港搭乗率保証契約 (2003～)等）、国交省も、羽田空港の発着枠の配分において、地方路線向け発着枠配分につき、両者のリスクシェア等の協調内容を加味する事態も生じている（2012年～）。空港のコンセッション契約においても、空港側と航空会社が需要変動リスクを共有する方式の着陸料を設定する例が見られる。
本研究は、空港と航空会社のリスク分配契約に関する先行研究を踏まえ、より一般的な状況へ分析の拡張を試るものである。2020年度には、DMOに代表される外部の旅行需要促進のための組織との連携について、上記空港と航空会社の関係に加味して、不完備契約理論・ゲーム理論の観点から、どのように旅客需要変動リスクを関係者間でシェアするリスク分配契約の構造化適切かについて、基礎的な分析結果を得た。

データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発

日原　勝也　Katsuya HIHARA　清水　哲夫（代表）　Tetsuo SHIMIZU (PI)　小笠原　悠　Yu OGASAWARA
大平　悠季　Yuki OHIRA

地域観光地は観光現象や評価に関するデータを継続的に取得し，適切なマーケティングや資源開発につなげる必要があるが，そのためには特に狭域 DMOの施策・事業立案に役立つ解像度の観光統計・データを整備する方法論を学として提案する必要がある．本研究では，延べ宿泊数データに特化し，国家観光統計，民間データ企業の滞在人口分布データ，およびWifiパケットセンサーデータなどを組み合わせて，観光地内の属性別延べ宿泊者数をできるだけ細かい時空間解像度で推計する方法を開発する．その際，DMOの施策・事業ニーズを徹底的に洗い出し，その評価に必要な指標データと推計方法の Porto Folioを提示する．研究期間を 3年とし，観光学，交通学，地理学，経済学，経営工学を専門とする研究者 6名による学際的なチームで研究を遂行する．本研究は，世界の観光統計研究に新しい視点と大きなインパクトを与え，DMOのデータ利活用人材層の強化・育成にも貢献する．分担者：兵頭哲朗（東京海洋大学）、矢部直人（東京都立大学）、杉本興運（東洋大学）、片桐由希子（金沢工業大学）

温泉地における客数増加の要因分析に関する研究

日原　勝也　Katsuya HIHARA　小笠原　悠　Yu OGASAWARA　目代　凪　Nagi MEDAI
岡本　直之　Naoyuki OKAMOTO

温泉浴の観光需要に与える影響は大きいが、温泉地の宿泊人員はピーク時のバブル期前後から 1,300 万人泊減少しており、宿泊施設数も大幅な減少傾向となっている。温泉地の低迷要因の指摘や再活性化に関する提言が数多くなされているが、現状の温泉地
研究は各温泉地の取り組みを明らかにした定性的な研究が殆どで、地域間の比較が可能なオープンデータを用いて客数の増加に寄与する要素を定量的に明らかにした研究は限定的である。
本研究は、データ制約から従前十分に分析されていない市町村、特に、温泉地が位置する全国 85 市町村を対象として、入湯客・宿泊客の増加に繋がる要因について、推計データを用いた新たな定量的分析を試みる。観光地へのアクセス状況などの従来から議論されている要因に加え、最近増加している訪日外国人観光客に関する要因等も加え、温泉地所在の市町村レベルで、集客にとって有効な施策・要因について新たな知見の習得が期待される。協力学生：目代凪　岡本直之

自然ツーリズムにおける外国人旅行者の消費行動に関する分析

日原　勝也　Katsuya HIHARA　沼田　真也　Shinya NUMATA

コロナ禍もあり、山岳、海岸等の自然資源に親しむ自然ツーリズムが、益々盛んになっているなかで、外国人旅行者の身分の差（国外からの旅行者か、国内に長期に滞在する旅行者か）により、目的地等においてなされる消費行動にどのような差があるのかについては、海外においても研究が非常に限定的で、さらに我が国における研究は非常に少ないのが現状。このリサーチギャップを埋めることに貢献するため、東京・高尾山を日帰りで訪れる外国人旅行者に対し、その消費行動等に関するアンケートを基に、社会的属性などを用いて、消費の特性・パターン、サブグループ間における差異等について定量的にかつ詳細に分析を行う。これにより、長期滞在による消費行動への影響と社会属性の違いに基づく購買パターンの類型化等が明らかになることが期待される。協力学生：Hasan Zakaria

プライベートロッジング・シェアリング・サービス (Airbnb 他) に関する研究

日原　勝也　Katsuya HIHARA

本研究では、シェアリングエコノミーのなかでも、プライベートロッジングのシェアリングサービス（民泊）について、webベースのプラットフォームを用いて世界に革命的な変革をもたらし、旅行のみならず宿泊分野においても、また、不動産賃貸分野においても大きな影響をもたらした、Airbnbについて、経営学、経済学、社会学、情報学等他分野からの多くの研究論文について整理し、Airbnbのもたらす旅行者、ホスト、旅行業界、地域住民、地域社会等への影響や評価の方法論について、包括的に分析を行った先行研究等に基づき、我が国の状況等を加味して、より包括的な研究レビューとすることを試みているものである。非常に変化の大きいシェアリングエコノミーにおいても、安定的に拡大を続けている Airbnbをはじめとするハウジングスペースシェアリングについて、内外における最新の学術知見を整理し、今後の研究の課題等を明らかにすることが期待できる。協力学生：屋良英美絵

オンラインツアーの参加意向の規定要因と制約の役割に関する研究

Wu Lingling

新型コロナウイルス感染拡大に伴う課題を克服するため、旅行業界は、ツアーガイドがWeb会議ツール等を介して遠隔地の旅行者に観光地を紹介する形態の旅行商品、通称「オンラインツアー」を新たに市場に導入している。本研究は、この新たなコンテンツに対する人々の行動意図にどのような要因が影響を及ぼすのかを明らかにすることを目的としている。検証にあたり、2020年12月に全国の日本人を対象として Webアンケート調査を実施した。調査で得られたデータの分析の結果、旅行者がオンラインツアーを体験している最中のポジティブな感情状態や実際に観光地にいるように感じさせる臨場感（テレプレゼンス）が人々のオンラインツアーへの参加意図に正の影響を与えることが確認された。また、旅行の制約は参加意向に直接影響しないが、他の要因との相互作用により間接的に影響を及ぼすことが確認された。具体的には、時間不足などの外的要因による構造的制約が真正性の効果を増幅させ、テレプレゼンスの効果を減衰させた。また、旅行の同行者との日程の不一致などの対人的制約はテレプレゼンスの効果を増大させるが、真正性の効果を弱めることが示唆された。さらに、日常的な旅行の制約が観光客の参加意図に有意な媒介効果を示す一方で、新型コロナウイルス感染拡大に起因する制約は直接的にも、間接的にも有意な影響は見られなかった。本研究で得られた知見は、今後、旅行制約下にある観光客に有益なオンライン旅行体験を設計する上で有益である。（協力学生：目代凪）

COVID-19 における非強制的措置は人間の移動性に与える影響に関する研究

Wu Lingling　清水　哲夫　Tetsuo SHIMIZU

本研究は、モバイル空間統計データの分析を通じて、COVID-19における非強制的措置は人間の移動性に与える影響を定量的に評価した。非負行列因子分解（NMF）法を用いて、東京地域のモバイル空間統計データを分析した。データ分析の結果は、日本で採用された措置は非強制ですが、人口移動を減らし、人々が社会的距離を置くように動機付けるのに効果的であることを示した。さらに、3つの都市（東京、大阪、広島）の移動性の変化を比較し、パンデミック時の行動パターンの変化の類似点と相違点について説明した。この研究で提案された分析ツールは、パンデミック中の移動性の変化、およびパンデミック後の段階での人口移動パターンの長期的な進化を分析することができる。

入れ子の需要構造に基づく収益管理

小笠原　悠　Yu OGASAWARA

片方の商品を買わなければもう一方の商品を買うことが出来ない，もしくは商品の価値を発揮することが出来ない，という２つの商品の関係が世の中には多く存在する. それは例えばカメラと専用レンズやゲーム機本体とゲームソフトなどの製品だけでなく，島へのフェリーと島内のレンタカーやアミューズメントパークの入場チケットとアミューズメントパーク内のレストランなど，観光産業やエンターテイメント産業におけるサービス業にも多く見られる．このような商品の構造を入れ子の需要構造と定義し，この需要構造の元における商品を組み合わせたバンドル商品の価格や商品数を最適化する収益管理問題を考えた．本研究では入れ子の需要構造の下でバンドル商品の売り出しが有効になる最適価格や最適商品数と，それらの最適解が存在するための条件を示した. また，数値実験によってこれらの最適解の振る舞いを観測した.

サービスプロセスの創造性
— サービスエンカウンターにおけるサービス従業員のサービス品質認知 —

阿曽　真紀子 Makiko ASO

サービスマーケティング研究としての継続研究である。今年度は、サービス従業員が顧客とのやり取りに生じるさまざまな事象を情報化し，サービス従業員のサービス品質認知作用が駆動するサービスプロセスの創造性を捉える研究をしている。これまでの研究では、Holmlund(1996)のモデルが示すように関係性が深くなれば、顧客の関係性レベルに応じて顧客対応レベルを段階で区分している。しかしこのモデルでは、顧客のサービスの品質認知レベルと関係性には明確にされていない。そこで本研究では、実際にサービスを提供していた従業員にインタビューし、サービスの実践の場である販売プロセスと顧客とのやり取りを調査したところ、新しいサービス提供ごとに顧客が持つサービス品質認知レベルに合わせてやり取りを行い、そのために顧客の関係性レベルを変更していることが明らかになった。また、サービス従業員は、顧客とのやり取りで、それらを感知し、販売プロセスにしていることが確認された。

地域資源を結びつけた観光教育および地域活性化についての研究

阿曽　真紀子 Makiko ASO

地域資源を結びつけた観光教育としての継続研究である。今年度は、人口わずか600人の知夫里村の「島留学」について研究を開始した。初年度は、地域の全体像を把握のため、資料および文献での調査が中心に進めており、コロナ禍のため調査協力者とはオンラインでやり取りをしている。

実務家教員の観光教育と大学生の雇用可能性の研究

阿曽　真紀子 Makiko ASO

今年度から開始した研究である。この研究背景には、実務経験を持つ教員（実務家教員）が学生に対し、実学を志向し社会の要請に応えるための学として観光学を教えることが多く、当該教育をより効果的に行うため様々な研究が行われてきたが、これまでは教員か学生かのどちらか一方に着目した追究のみ行われており、教員・学生双方の知識や背景、ニーズ等を踏まえた双方にとって価値のある教育については検討されてこなかった。そこで、本研究では「高等教育のサービス品質は、学習における価値において職業的な目標への寄与（使用価値）に影響を及ぼす」というサービス研究に基づく仮説のもと、インタビュー/アンケート調査により観光産業界が求める学生像（雇用可能性）の要素を抽出の上、分析から最適な教育とは何かを目指す。アプローチには、教育サービスの価値共創に着眼し、教育の価値共創概念の拡張を狙いとしている。調査は、大手航空会社の協力を得て進めている。現在、パイロット調査を実施し、今後に本調査を進める予定である。

沼田　真也 Shinya NUMATA

学会発表

Eguchi, A., Numata, S. Climatic factors affecting annual durian production in Peninsular Malaysia. International Congress of Biometeorology (online). Sep. 2021.

沼田 真也 人間と自然生態系ツーリズム 公開フォーラム「人間生態系をデザインする：さまざまなセクターの協働」 日本生態学会 保全生態学研究 編集委員会 オンライン開催　2021年 9月

Numata, S. & A. Suzuki. Why tourism in PAs? Bridging ecological research and tourism. f SATREPS-PUBS Workshop (Kuching and online style). Nov. 2021.

江口碧、陸川早紀、赤石旺之、倪荣霞、大久保翔太、那珂知美、山﨑芽生、齊藤凌太、山根裕美、鈴木愛、沼田真也 バズる野生動物動画の条件とは？ 日本生態学会第 69回 オンライン　2021年 3月

論文、図書・報告書

Sugiyama, N., T. Hosaka, E. Takagi, S. Numata. (2021) How do childhood nature experiences and negative emotions towards nature influence preferences for outdoor activity among young adults? Landscape and Urban Planning. 205: https://-doi.org/10.1016/j.landurbplan.2020.103971

Zakaria, H. M., K. Hihara, S. Numata. (2021) Expenditure patterns of foreign resident visitors and foreign tourist visitors at a day-trip nature-based destination. Tourism and Hospitality. 2: 277-287. https://doi.org/10.3390/tourhosp2020017

Hossain, M. I., S. Numata. (2021) Effects of land-related policies on deforestation in a protected area: the case study of Rema-Kalenga Wildlife Sanctuary, Bangladesh. Conservation.1: 168-181. https://doi.org/10.3390/conservation1030014

Zakaria, H. M., K. Hihara, S. Numata. (2021) Expenditure-based segmentation of foreign visitors in a nature reserve in Tokyo, Japan. Journal of Tourism, Hospitality, and Culinary Arts. 13: 1-14.

Hossain, M. I, S. Numata, U. Saika. (2021) Stakeholder perceptions of protected area management: The case of the Rema-Kalenga Wildlife Sanctuary in Bangladesh. Bangladesh Journal of Environmental Research. 12: 75-96.

Ab Lah, N. Z., Z. Yusop, M. Hashim, S. Numata, J. M. Salim. (2021) Predicting the distribution of Melaleuca cajuputi (Gelam) using Habitat Suitability Index. Forests: 12, 1449. https://-doi.org/10.3390/f12111449

Jacobs, M. H., S. Dubois, T. Hosaka, V. Ladanovic, H. F. Mohamad Muslim, K. K Miller, S. Numata, E. Ranaweerage, T. M Straka, M. A Weston, Z. A Zainal Abidin. (2022) Exploring cultural differences in wildlife value orientations using student samples in seven nations. Biodiversity and Conservation. https://-doi.org/10.1007/s10531-022-02361-5

Numata, S., K. Yamaguchi, M. Shimizu, G. Sakurai, A. Morimoto, N. Alias, N. Z. Noor Azman, T. Hosaka, A. Satake (in press) Impacts of climate change on reproductive phenology in tropical rainforests of Southeast Asia. Communications Biology.

仁平　尊明 Takaaki NIHEI

論文・図書等

Mollah, T., Mohammad, N., Tashin, M., Hasan, M. R. and Nihei, T. (2021): SWOT analysis for local NGOs: a geo-spatial analysis evidence from rural Bangladesh. The Jahangirnagar Review, 43, 179-194.

仁平尊明 (2021): 書評 ：渡辺悌二・白坂　蕃編『変わりゆくパミールの自然と暮らし —持続可能な山岳社会に向けて—』. 地理空間 , 14, 150-152.

帝国書院編集部編 (2021):『帝国書院　地理シリーズ　新・日本のすがた (7)　北海道地方』.

帝国書院編集部編 (2021):『社会科　中学生の地理　世界の姿と日本の国土　指導用教科書』.

文部科学省検定教科書（高等学校）.

文部科学省検定教科書（中学校）.

大澤　剛士 Takeshi OSAWA

学会発表

1. 生物多様性情報学の目指すもの . 日本生態学会第 69回大会 . 2022年 3月

2. 都市でタヌキとアライグマは共存できる?-活動時間と食性の変化から -. 日本生態学会第 69回大会 . 2022年 3月

3. 大規模洪水撹乱による河川植物群落の形成プロセス . 日本生態学会第 69回大会 . 2022年 3月

4. 土地利用と立地環境が水田性の希少植物種の分布に及ぼす影響 . 日本生態学会第 69回大会 . 2022年 3月

5. それってホンマにオープンデータ?.応用生態工学会第 24回全国大会 2021年 9月

査読付き論文

1.Osawa T, Nishida T, Oka T (2021) Potential of mitigating flood-water damage to residential areas using paddy fields in water storage zones. International Journal of Disaster Risk Reduction 62: 102410.

2.佐々木譲・大澤剛士 (2021) 土着クモによる害虫抑制の可能性 -青森県五戸町のゴボウ畑における事例 -.北日本病害虫研究会報 72:130-135.

3.松永香織・大澤剛士(2021) 都市緑地における植栽種の由来による温度低減効果の比較: 東京都心部における事例 .保全生態学研究 26: 113-124.

4.Yamasaki K, Tabuchi K, Takahashi A, Osawa T, Yoshioka A, Ishigooka Y, Sudo S, Takada M (2021)Intraspecific variations in life history traits of two pecky rice bug species from Japan: mapping emergence dates and number of annual generations.Ecology and Evolution 11: 16936-16950.

5.Osawa T, Tsunoda H, Shimada T, Miwa M(2022) Establishment of an expansion-predicting model for invasive alien cerambycid beetle Aromia bungii based on a virtual ecology approach.Management of Biological Invasions 13.

6.Doi H, Osawa T, Tsutsumida N (2022) Assessing the potential repercussions of the COVID-19 pandemic on global SDG attainment.Discover Sustainability 3.

7.Onozuka M, Osawa T (2022) Utilization potential of alien plants in nature-based tourism sites: A case study on Agave americana (century plant) in the Ogasawara Islands.Ecological Economics 195:107362.

著書

1.Osawa T, Nishida T, Oka T(2022) Paddy fields as green infrastructure: their ecosystem services and threatening drivers. In Green Infrastructure: evaluation, implementation and governance(Nakamura F. eds),Springer.

2.Osawa T, Nishida T(2022) Toward social infrastructure: typological idea for evaluating implementation potential of green infrastructure. In Green Infrastructure: evaluation, implementation and governance(Nakamura F. eds),Springer.

高木　悦郎　Etsuro TAKAGI

論文(査読付き)

Zhu, X.-J., Zhang, S.-N., Watanabe, K., Kawakami, K., Kubota, N., Takagi, E., Tanahashi, M., Wen, X.-J., & Kubota, K. (2022) Diverse Heat Tolerance of the
Yeast Symbionts of Platycerus Stag Beetles in Japan. Frontiers in Microbiology, 12, 793592.

Smith, Z.M., Chase, K.D., Takagi, E., Kees, A.M. & Aukema, B.H. (2021) Colonization and reproduction of potential competitors with mountain pine beetle in baited logs of a new host for mountain pine beetle, jack pine. Forest Ecology and Management, 497, 119455.

坂本　優紀　Yuki SAKAMOTO

論文(査読付き)

坂本優紀（2022）：音楽実践によるローカリティの構築―フォルクローレする川俣町―, 地理学評論, 95(2), pp.101-122.

清水　哲夫　Tetsuo SHIMIZU

学会発表

Nguyen, V. T. and Shimizu, T.: Sample size and population total estimation of count data: Application in tourism statistics, TOURMAN 2021, Online, May 2021.

Nguyen, V. T. and Shimizu, T.: Covid-19 pandemic and policy responses: Economic impacts from perspectives of the tourism industry, TOURMAN 2021, Online, May 2021.

天目岳志, 清水哲夫, 大平悠季: 訪問順序を考慮した訪日外国人観光客の周遊パターンの類型化とその変遷ー地方空港への国際線就航状況に着目して, 第 63回土木計画学研究発表会, オンライン , 2021年 6月 .

片桐由紀子, 横倉恵美, 清水哲夫, 大平悠季: 大都市郊外の自然地域における散策活動への交通手段の選択要因, 第 41回交通工学研究発表会, オンライン, 2021年 8月 .

PHAM, D. H., Shimizu, T. and Nguyen, V. T.: Analysis of transport supply-demand gaps in rural tourism areas, 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies, Online, September 2021.

Kubota, Y., Ohira, Y. and Shimizu, T.: Attention-based Contextual Multi-View Graph Convolutional Networks for Short-term Population Prediction, UrbComp2021, Online, November 2021.

岩田賢, 清水哲夫: 観光圏と観光地域づくり法人 (DMO)における認定・登録要件等の比較研究, 第 36回日本観光研究学会全国大会, オンライン , 2021年 12月 .

■査読付き論文

Pham, H. D., Shimizu, T. and Nguyen, T. V.: A Literature Review on Interactions Between Stakeholders Though Accessibility Indicators Under Mobility as a Service Context, International Journal of Intelligent Transportation Systems Research, Vol.19, pp.468-476, 2021, https://doi.org/10.1007/s13177-021-00257-2

Nguyen, V. T., Shimizu, T., Kurihara, T. and Choi, S. : Accommodation statistics: the current issues and an innovation, Current Issues in Tourism, https://doi.org/10.1080/13683500.2021.1978951

Kubota, Y., Ohira, Y. and Shimizu, T.: Attention-based Contextual Multi-View Graph Convolutional Networks for Short-term Population Prediction, Accepted papers for UrbComp2021, 2021.

Tiku, O. , Shimizu, T. and Hartono, D.: Tourism' s income distribution in West Papua Province, Annals of Tourism Research Empirical Insights, Vol.3, No.1, 2022., https://doi.org/10.1016/j.annale.2022.100038

査読なし論文

天目岳志, 清水哲夫, 大平悠季: 訪問順序を考慮した訪日外国人観光客の周遊パターンの類型化とその変遷ー地方空港への国際線就航状況に着目して, 土木計画学研究・講演集, No.63(CD-ROM), 2021.

片桐由紀子, 横倉恵美, 清水哲夫, 大平悠季: 大都市郊外の自然地域における散策活動への交通手段の選択要因, 第 41回交通工学研究発表会論文集 (CD-ROM), 2021.

岩田賢, 清水哲夫: 観光圏と観光地域づくり法人 (DMO)における認定・登録要件等の比較研究, 第 36回日本観光研究学会全国大会論文集 , 2021.

著書

地域モビリティの再構築(分担), 第 1章 2節: 新しい観光の価値を創り上げる地域モビリティ, pp.42-48, 薫風社, 2021.

解説記事・論説文

清水哲夫: ウィズ /ポストコロナ時代の観光〜観光研究が果たす役割〜, 観光文化, No.252, pp.1, 2022.

清水哲夫: 書評〜インバウンド再生ーコロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える, 運輸政策研究, Vol.24, pp.43, 2022.

川原　晋　Susumu KAWAHARA

口頭発表

海老沢結 , 川原晋 , 平田徳恵(2021)「歴史文化資源の保全・継承と観光活用における偉人子孫と行政の取組み比較
ー東京都日野市における新選組の子孫が運営する資料館に着目してー 」,日本観光研究学会 第 36回全国大会学術論文 , 2021.12

石井萌美 , 川原晋(2021)「生活文化資源としての銭湯継承とレクリエーションを含む新規需要獲得の取り組み
ー親族以外が事業承継した銭湯に着目してー 」,日本観光研究学会 第 36回全国大会学術論文 ,2021.12

青木卓也 , 川原晋(2021)「旅行者主導型コンテンツとしての「猫島」の観光動向や課題と島民・行政の対応実態
—「猫島現象」を活かした適切な離島振興に向けて—」日本建築学会大会 ,2021.09

山田大樹, 田中滋夫, 川原晋, 佐藤滋(2021)「天授局圖本の分析による初代嘉隆帝陵墓及び周辺領域の風水計画原理の解明ーヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (25)ー」日本建築学会大会 , 2021.09

中西美裕, 川原晋, 山田大樹, 田中滋夫, 佐藤滋(2021)「明命帝陵周辺地域における周辺集落の成立過程と文化的景観の変容ーヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (26)ー」日本建築学会大会 , 2021.09

佐藤滋 , 中西美裕 , 川原晋 , 田中滋夫 , 山田大樹「孝陵局圖本による明命帝陵墓の構成原理の解明と阮朝初期 2 代皇帝の世界観ーヴェトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (27)ー」日本建築学会大会 , 2021.09

狭間辰之 , 海老沢結 , 川原晋 , 山田大樹 , 田中滋夫 , 佐藤滋(2021)「嘉隆帝陵エコスタディーツアーとオンライツアーの組合せに見るエコツーリズムとの親和性ーヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (28)ー」日本建築学会大会 ,2021.09

講演・研修講師等

川原 晋「総合的な都市戦略のためのツーリズム行政～多様な主体の連携による観光政策～」, 日本都市センター第 24回 都市政策研究交流会 基調講演 , 2021.11.30

川原 晋「公民連携によるビジョンと事業づくり、チームビルディング ～観光地域づくりの最前線 地域観光プランニング概論その４～」, 東京都立大学オープンユニバーシティ観光経営人材育成講座, 2022.02.12

図書（全体監修、分担執筆）

川原晋 , 阿部貴弘 , 羽生冬佳 , 三浦正士 , 米田誠司 , 日本都市センター「都市自治体におけるツーリズム行政 ―持続可能な地域に向けて―」, 研究会座長 , 分担執筆 , 公益財団法人日本都市センター, 2021.04
序章　都市自治体による今後の観光行政の論点（川原晋 , 日本都市センター）
２章　消費されない観光価値を生むストック型の観光行政へ（川原晋）
https://www.toshi.or.jp/publication/16790/

論文（査読あり）

海老沢結 , 川原晋 , 平田徳恵（2021）「歴史文化資源の保全・継承と観光活用における偉人子孫と行政の取組み比較
－東京都日野市における新選組の子孫が運営する資料館に着目して－ 」,日本観光研究学会 第 36回全国大会学術論文 , 2021.12

石井萌美 , 川原晋（2021）「生活文化資源としての銭湯継承とレクリエーションを含む新規需要獲得の取り組み
－親族以外が事業承継した銭湯に着目して－ 」,日本観光研究学会 第 36回全国大会学術論文 ,2021.12

青木卓也 , 川原晋（2021）「旅行者主導型コンテンツとしての「猫島」の観光動向や課題と島民・行政の対応実態
―「猫島現象」を活かした適切な離島振興に向けて―」日本建築学会大会学術講演梗概集 2020(都市計画)(選抜梗概), 2021.09

川原 晋「目的達成や商品磨き上げに活かせる事業検証方法とは ?」, 地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業 採択団体向け最終報告会 ～専門家からのワンポイント講演 ～, 2022.03.09

川原 晋「観光まちづくりとこれを支える様々な調査・研究」, 神奈川県立相模原高校１, ２学年課題研究合同発表会 基調講演, 2022.03.23

公開作品等

「ときがわ町 山の恵みフェノロジーカレンダー」制作：川原晋研究室, 発行：ときがわネットワーク , 2021.03

「ときがわ森の教室 ～里山基盤ものづくりの川上から川下までの事業者連携による観光まちづくり～」ホームページ公開 , ときがわネットワーク（川原研究室参画）,2022.03, http://tokigawa-kyoshitsu.jp

「八王子産食材でつくる お酒とおつまみ」プロジェクター＋マッピング模型システムを用いた展示コンテンツ, 桑都日本遺産センター 八王子博物館内展示, 制作：川原晋＋観光科学科２年生有志, 協力：八王子市, 日本遺産「桑都物語」推進協議会, 株式会社ウェザーコック , 2022.02

川原晋「いまこそ観光まちづくり　～コロナ禍で見えてきたこれからの観光」東京リカレントナビ ミニッツ動画（東京都リカレント教育推進ポータルサイトのモデル講義）,2022.03.25, https://www.recurrent-navi.metro.tokyo.lg.jp/movie/2874

川原晋「観光とデザイン　～地域らしさの表現から観光シーンづくりまで」東京リカレントナビ ミニッツ動画（東京都リカレント教育推進ポータルサイトのモデル講義）,2022.03.25, https://www.recurrent-navi.metro.tokyo.lg.jp/movie/2876

論説、報告書等

「観光まちづくりの具体的な進め方　地域観光プランニングの提唱」, 寄稿「週刊ホテルレストラン別冊　MAGAZINEホテルを作るレシピ vol.2 都市と未来」PP.38-41

川原 晋「目的達成や商品磨き上げに活かせる事業検証方法とは ?」, 地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業 手引き書, PP.45-47執筆, https://www.mlit.go.jp/kankocho/iki-nai-renkei.html

岡村　祐　Yu OKAMURA

査読付論文

山嵜一也・岡村祐（2022）：カメラによって選手・競技会場・都市景観を映し出す五輪景観の計画・実現の経緯 -2012 年ロンドン五輪を事例として - 日本建築学会計画系論文集 , 798　掲載決定

岡村祐・片桐由希子（2022）：埼玉県飯能市天覧山周辺の散策路と周辺地域の整備・開発・保全に関する一考察, ランドスケープ研究, 85（5）掲載決定

手代木茜・岡村祐（2021）：海浜観光地における津波防災地域づくりに関する計画策定とその実行に観光事業者が果たす役割 ―伊豆市『観光防災まちづくり推進計画』を事例に―, 日本建築学会技術報告集 , No.67, pp.1446-1451

論文（査読なし）

岡村祐（2021）：『2021年版観光白書』の概要とポイント Withコロナの観光動向と Postコロナを見据えた観光再生戦略, Monthly信用金庫, 10月号, pp.48-52

岡村祐（2021）：With／Postコロナにおける持続可能な観光地形成, 2021年度日本建築学会大会（東海）都市計画部門パネルディスカッション「ポストコロナに向けての観光地域の再生戦略」, 日本建築学会、pp.3-6

関塚哲史・岡村祐（2021）：郊外住宅地駅周辺におけるエリアマネジメントの継続要因と今後の課題　-東京都八王子市南大沢駅周辺を事例として -, 都市計画報告集, No.21, pp85-91

野田　満　Mitsuru NODA

論文

齋藤雪彦・野田満：移住・定住における個人志向とコミュニティ志向、日本建築学会大会研究懇談会資料集「コロナ禍の農山漁村地域　移住・定住・関係人口創出への影響と新たな可能性」、pp.25-26、2021.09

野田満・齋藤雪彦：関係人口の再考に関する一試論 その 2人材と地域との関係及びその軌跡の視点から、日本建築学会大会研究懇談会資料集「コロナ禍の農山漁村地域　移住・定住・関係人口創出への影響と新たな可能性」、pp.45-46、2021.09

著書

山崎義人・清野隆・柏崎梢・野田満：はじめてのまちづくり学、学芸出版社、2021.08

大平　悠季　Yuki OHIRA

学会発表

久保田祐輝, 清水哲夫, 大平悠季, 注意機構を用いた Graph Convolutional Networksによる短期的将来滞在人口数推定, 情報処理学会第99回研究会, オンライン, 2021年 5月

天目岳志, 清水哲夫, 大平悠季, 訪問順序を考慮した訪日外国人観光客の周遊パターンの類型化とその変遷ー地方空港への国際線就航状況に着目してー, 第 63回土木計画学研究発表会・春大会, オンライン, 2021年 6月

Okazaki, M., Ohira, Y., Fukuyama, K., Kuwano, M., Ishii, A., Study of travel purpose types of inbound tourists to Japan based on visited spots combination pattern, 21st International Conference on Group Decision and Negotiation (GDN2021), Online, 2021年 6月

片桐由希子, 横倉恵美, 清水哲夫, 大平悠季, 大都市郊外の自然地域における散策活動への交通手段の選択要因, 第 41回交通工学研究発表会, オンライン, 2021年 8月

論文（査読有）

Kubota, Y., Ohira, Y., Shimizu, T., Attention-based Contextual Multi-View Graph Convolutional Networks for Short-term Population Prediction, Accepted papers for UrbComp2021, https://doi.org/10.48550/arXiv.2203.00489, 2021.

福山敬, 青木智男, 大平悠季, 道路時間距離を用いた地方都市生活圏の居住のコンパクト性の評価，都市計画論文集，Vol.56-3, pp.1168-1175, 2021.

平田　徳恵　Norie HIRATA

学会発表

平田徳恵・堀口智子，夷隅地域におけるボトムアップ型エコミュージアム構想その 3：地域資源の保存・再生・活用技術の地域内共有，日本建築学会（東海）大会学術講演 13014（教育）,オンライン，2021年9月

海老沢結・川原晋・平田徳恵，歴史文化資源の保全・継承と観光活用における偉人子孫と行政の取組み比較―東京都日野市における新選組の子孫が運営する資料館に着目して―，日本観光研究学会第 36回全国大会研究発表会（査読付き部門），オンライン，2021年 12月

論文

（査読付）
海老沢結・川原晋・平田徳恵（2021）：歴史文化資源の保全・継承と観光活用における偉人子孫と行政の取組み比較―東京都日野市における新選組の子孫が運営する資料館に着目して―，観光研究，第 33号特集号，pp75-84.

（査読無）
平田徳恵・堀口智子（2021）：夷隅地域におけるボトムアップ型エコミュージアム構想 その３ー地域資源の保存・再生・活用技術の地域内共有，日本建築学会（東海)大会学術講演梗概集（教育）13014，pp.27-28.

図書・報告書

（報告書）
平田徳恵（編著）2021年度観光庁「里山基盤ものづくりの川上から川下までの事業者連携による DIY体験コンテンツ造成事業」事業評価アンケート報告書，委託：ときがわネットワーク，2022年 2月

相原　健郎　Kenro AIHARA

学会発表

'Kenro Aihara, Understanding Intra-Regional Flow of Vehicles Using Automatic License Plate Recognition, Distributed, Ambient and Pervasive Interactions, 2022年 6月

論文

莊司 慶行・相原 健郎・大島 裕明・神門 典子・白石 晃一・中島 悠太・山本 岳洋・山本 祐輔（2022）：提示型検索モデルに基づくミュージアム電子ガイドとその利用ログを用いた事前学習・事後学習支援，情報処理学会論文誌，63(3), pp.364-377.

倉田　洋平　Yohei KURATA

学会発表

谷藤優成，倉田陽平（2022）代行旅行アプリの試作と実証～『人の代わりに旅する』ことの可能性～.第 8回とうかい観光情報学研究会 .

吉田伊武貴，倉田陽平（2022）投稿者による評価スコアや感情極性辞書を用いない，文意に基づく宿泊施設不満レビュー自動抽出手法の構築及びその分析による不満予防策の検討 .DEIM2022.

Kennichiro Hori, Ibuki Yoshida,Miki Suzuki,Zhu Yiwen,Yohei Kurata(2022)Emergence and rapid popularization of paid web-conferencing-application-based tours in Japan: an analysis of their business potential. ENTER2022.

鈴木美樹・倉田陽平（2021)トラベルキャリアと阻害要因が中高年の旅行動機に与える影響 .観光研究学会第 36回全国大会 .

鈴木美樹，朱逸雯，堀　健一朗，倉田陽平 (2021)：オンラインツアーのレビュー・タイトルから読み取るオンラインツアーのニーズ―時間的・空間的観点からの分析―.観光情報学会第 22回研究発表会 .

吉田伊武貴，倉田陽平 (2021)：失敗談ツイートのテキスト分析による北海道における観光失敗リスクの把握 .観光情報学会第 22回研究発表会 .

論文、図書・報告書

Kennichiro Hori, Ibuki Yoshida,Miki Suzuki,Zhu Yiwen,Yohei Kurata(2022)Emergence and rapid popularization of paid web-conferencing-application-based tours in Japan: an analysis of their business potential. in Jason L. Stienmetz, Bertra Ferrer-Rosell,David Massimo(eds.)Information and Communication Technologies in Tourism: Proceedings of the ENTER2022, eTourism Conference, pp.41-54,査読有 .

倉田陽平（2021）：「だれでもガイド!」を地理総合に活用しよう .地理月報 563号 ,pp.14-17,査読無 .

日原　勝也　Katsuya HIHARA

学会発表

Hihara, K.,　"Airport/Airline as a Platformer (AaaP) ?　- Its Potential with Network Externalities -"ATRS(2021年 8月シドニー・オンライン)

Hihara, K., , "Analysis of Platformer Economy with Network Externalities - A Pathway to Sharing Economy,"
日本交通学会 (2021年 10月・慶応大学・オンライン)

Hihara, K., , "Analysis of Platformer Economy with Network Externalities - Theoretical Pathway to Sharing
EconomyINFORMS," (2021年 11月・カリフォルニア州・アナハイム・オンライン)

Hihara, K., , "Analysis of Platformer Economy with Network Externalities - Pathway to Sharing Economy," 応用地
域学会 (2021年 11月・佐賀大学・オンライン)

Miyasaka, N., and Hihara, K.,　"Sharing Economy as a Means to Solve Regional Issues ― An Analysis of Sharing
Economy in Japan based on Data Survey and Modelling the Market Structures ―," 日本観光研究学会 (2021年 12月
立教大学・オンライン)

目代凪、岡本直之、小笠原悠、日原勝也、「我が国の主要温泉地の需要に対する影響要因の定量分析」,日本観光研究学会 (2021年 12月立教大学・オンライン)(ミクロ経済系の ATRS(8月シドニー・オンライン), 日本交通学会 (10月・慶応大学・オンライン)、INFORMS(11月・カリフォルニア州・アナハイム・オンライン)、日本観光研究学会 (12月立教大学・オンライン)

論文（査読付）

Zakaria, H., Numata, S., and Hihara, K., 2021, Expenditure Based Segmentation of Foreign Visitors in
Nature-based Destination, Journal of Tourism, Hospitality and Culinary Arts, 13-1. 1-4.

Zakaria, H., Numata, S., and Hihara, K., 2021, Expenditure Patterns of Foreign Resident Visitors and Foreign Tourist Visitors at a Day-Trip Nature-Based Destination, Tourism and Hospitality, 2. 277-287.

論文（査読無）

Miyasaka,　N., and Hihara, K., Sharing Economy as a Means to Solve Regional Issues – An Analysis of Sharing Economy in Japan based on Data Survey and Modelling the Market Structures, 第 36回日本観光研究学会全国大会学術論文集 (2021年 12月) pp105-110.

目代凪、岡本直之、小笠原悠、日原勝也、我が国の主要温泉地の需要に対する影響要因の定量分析 , 第 36回日本観光研究学会全国大会学術論文集 (2021年 12月) pp.89-93.

宮坂奈緒・日原勝也、地域課題解決のためのシェアリングエコノミー導入の特徴 -日本のシェアリングエコノミーの実態分析と市場の構成要素分析、観光科学研究　(2021年度). pp.105-110.

図書（章）（査読付）

Hihara, K. 2022. "The Recent Development of Climate Change Mitigation in Aviation Sector".
In: Chen et al. (ed) Handbook of Climate Change Mitigation and Adaptation 3rd ed., Springer,
Switzerland, P 489-523. Editors Wei-Yin Chen, Maximilian Lackner, (available on line: 2022. 3. 30).

Wu Lingling Wu Lingling

論文、図書・報告書

Nagi Medai, Lingling Wu. (2022). A study of determinants that affect the intention to participate in online tours and the role of constraints under COVID-19 pandemic. Current Issues in Tourism (in press).

小笠原　悠 Yu OGASAWARA

学会発表

小笠原悠，中村翔：BMI関連遺伝子情報を考慮した Directional efficiencyの利用，日本 OR学会「ヘルスケアの OR」研究部会，2022/02/05

小笠原悠：安定性を考慮した季節性指標とその類型方法―我が国における宿泊需要の季節性変化―，日本観光研究学会第 36回全国大会，2021/12/04

目代凪，岡本直之，小笠原悠，日原勝也：我が国の主要温泉地の需要に対する影響要因の定量分析，日本観光研究学会第 36回全国大会，2021/12/04

小笠原悠，佐藤公俊：需要の包含関係に着目した収益管理モデル，京都大学数理解析研究所共同利用 RIMS共同研究：不確実環境下における意思決定数理の新展開，2021/11/15

論文

小笠原悠，佐藤公俊（in press）：需要の包含関係に着目した収益管理モデル，京都大学数理解析研究所講究録（不確実環境下における意思決定数理の新展開）．

図書

岸本一男，小笠原悠（2022）：選挙・投票・公共選択の数理；大山達雄（編）（第 4章　選挙得票数からの政党政策座標決定法とその適用例），共立出版，2022/3/2

阿曽　真紀子 Makiko ASO

学会発表

阿曽真紀子、サービスプロセスの創造性―サービスエンカウンターにおけるサービス従業員のサービス品質認知―、日本マーケティング学会カンファレンス、オンライン発表、2021年 10月

04 特定学術研究
Research Summary

4-1. 自然環境マネジメント領域

沼田　真也　Shinya NUMATA

2020年度　科研費　挑戦的萌芽（研究代表者）「自然保護地域の持続的管理に寄与するバーチャルハンティングプログラム開発」実施中

2020年度　SATREPS（地球規模の環境課題の解決に資する研究）　研究分担者「マレーシア国サラワク州の保護地域における熱帯雨林の生物多様性活用システムの開発（京大・市岡孝朗）」

仁平　尊明　Takaaki NIHEI

基盤研究（B)「地域の内発力の成立基盤に関する地理学的研究」（分担、継続）

基盤研究（C)「Systematizing the methodology of human geography in the discipline of nature-based tourism science」（代表、不採択）

大学研究者による東京都事業提案制度「ポストコロナ時代における「緑空間」を拡大した環境先進都市・東京の創設に関する研究」（代表、不採択）

高木　悦郎　Etsuro TAKAGI

科研費　若手研究：樹皮下キクイムシの産卵選好性と寄主利用能力およびその地理的変異の解明．2019年度－2022年度（代表）

坂本　優紀　Yuki SAKAMOTO

公益財団法人国土地理協会 2021年度学術研究助成：外来音楽の地域資源化から捉える音楽と地域の関係性（代表）

04 特定学術研究
Research Summary

4-2. 地域計画・マネジメント領域

清水　哲夫 Tetsuo SHIMIZU

基盤研究 B「アジア途上国における多様なコネクティビティを有する国境横断型まちづくりの研究」（研究代表者：張峻屹広島大学教授，2019～2021年度）
基盤研究 B「データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発」（研究代表者：清水哲夫，2020～2022年度）
基盤研究 C「観光混雑回避に向けた自発的行動変容を促すゲーミフィケーション導入に関する実証研究」（研究代表者：楽奕平芝浦工業大学准教授，2020～2022年度）

東京都産業労働局観光部委託事業「観光経営人材育成事業」（実施代表者：清水哲夫，2017～2022年度）
小田急電鉄㈱，㈱小田急エージェンシー相互負担型共同研究（実施代表者：清水哲夫，2021～2022年度）

川原　晋 Susumu KAWAHARA

基盤 A「観光地環境管理と市場活動の統合型計画技術『地域観光プランニング』の詳細化と実装化」H29年度採択～2021年度、研究代表者

基盤 B「ベトナム香江流域圏における歴史生態学的環境の持続的マネジメント計画論の構築」H31年度採択、研究分担者（研究代表者：佐藤滋　早稲田大学）

萌芽研究「地域文化システムとしての料亭に関する組織と変遷」2020年度採択研究分担者（研究代表者 :岡崎篤行 新潟大学）

基盤 B「持続可能な観光地域形成パッケージの国際的技術移転とネットワーク形成に関する研究」（研究代表者 :岡村祐 東京都立大学）

【受託研究：株式会社ウェザーコック（八王子市日本遺産「桑都物語」推進協議会）】P+MMを活用した地域資源を題材としたコンテンツ作成業務，受託組織：川原晋研究室，2021.11 - 2021.2

【受託研究：埼玉県ときがわ町 ときがわネットワーク】里山基盤ものづくりの川上から川下までの事業者連携による DIY体験コンテンツ造成事業 事業効果の検証等業務」受託組織：川原晋研究室，2021.7 - 2022.2

岡村　祐 Yu OKAMURA

【応募状況】
基盤研究（B）：持続可能な観光地域形成パッケージの国際的技術移転とネットワーク形成に関する研究（代表　東京都立大学　岡村祐），研究代表者，R4-7（採択）

基盤研究（B）：ポスト・オーバーツーリズム期における脱成長型観光政策の実装に向けた包括的研究（代表　龍谷大学　阿部大輔），研究分担者，R4-6（採択）

基盤研究（B）：日常と観光の近接化を活かす持続可能な地域形成に向けたビジネスエコシステム計画論（代表 東京都立大学　川原晋），研究分担者 ,R4-6

【採択状況（継続）】
挑戦的研究（萌芽）：地域文化システムとしての料亭に関する組織と変遷（代表　新潟大学　岡崎篤行），研究分担者，R2-4

基盤研究（C）：生活都市のビジョンの共実現と持続可能な観光の連動的な展開（代表　金沢工業大学　片桐由希子），研究分担者，R2-4

基盤研究（C）：都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性，（代表　東京都立大学　岡村祐），研究代表者，H30-32（R4まで延長）

基盤研究（A）：観光地環境管理と市場活動の統合型計画技術「地域観光プランニング」の詳細化と実装化（代表 東京都立大学　川原晋），研究分担者，H29-32（R3まで延長）

受託研究費：「南大沢スマートシティに関する業務」（委託者：デロイトトーマツコンサルティング合同会社）

野田　満 Mitsuru NODA

文科省科研費（若手研究）：「関係人口」の再定義を踏まえた過疎地域の計画論構築 -地域づくりの実践を通して、2020-2022（代表）

文科省科研費（基盤研究 C）："通い住民 "の地域社会持続への寄与とその定量化、2020-2022（研究分担者）（代表：齋藤雪彦 /千葉大学）

文科省科研費（基盤研究 C）：「ネットワーク型事前復興計画」複数漁村の連携と地域文脈・漁業権の仕組みからの考案、2020-2022（研究分担者）（代表：下田元毅 /大阪大学）

トヨタ自動車株式会社トヨタ環境活動助成プログラム国内小規模プロジェクト：「環境教育 ×アウトドア」のコミュニケーションツールの制作を通した「参加型環境保全観光」、2019-2021（プロジェクト実施担当）

一般財団法人高知放送エヌ・ピー・オー・高齢者支援基金「田舎文化の継承と高齢者の生きがいづくりに向けた「集落史」の編纂と活用」、2020-2021（プロジェクト代表）

公益財団法人マツダ財団研究助成（青少年健全育成関係）：フィールド調査及び企画運営を通した子ども食堂の潜在的意義と今日的課題に関する基礎的研究、2020-2022（代表）

傾斜的研究費（部局分） 若手奨励経費：「観光むらづくり」推進に向けた地域内ストックの利活用に関する基礎的研究 -中山間地域における実践支援を通して、2021（代表）

04 特定学術研究
Research Summary

大平　悠季 Yuki OHIRA

科研費 若手研究：空き店舗を活用したタウンマネジメント方策の提案, 平成 30-令和 3年度（代表）

科研費 若手研究：テレワーク普及下の社会経済活動の集積・分散メカニズムに関する数理モデル研究, 令和 3-5年度（代表）

科研費 基盤研究 (B)：EBPMに向けた交通インフラ・ストック効果計測手法の確立と事後評価への展開, 令和 2-4年度（分担）

科研費 基盤研究 (B)：データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発, 令和 2-4年度（分担）

科研費 基盤研究 (C)：立地とアクセシビリティの評価による地方中小都市のコンパクト化の進度の分析, 令和 3-5年度（分担）

科研費 基盤研究 (C)：自殺予防因子の探索およびその普及と定着の方法に関する研究, 令和 3-5年度（分担）

平田　徳恵 Norie HIRATA

科研費 若手研究：観光政策立案実践の為に自治体職員に必要となる専門スキル把握と教育プログラムの提案 , 2018－2020年度 -期間延長中（代表）

科研費 若手研究：住民主体の観光地域づくり推進に向けた色の活用による地域学習プログラムに関する研究， 2022－2024年度（代表）

04 特定学術研究
Research Summary

3-3. 行動経営科学領域

相原　健郎 Kenro AIHARA

科研費 基盤研究（B)（一般）： 観光実態把握のためのミクロ流動把握のモデル化と方法論，令和 4-7年度（代表）

受託研究費（一般社団法人ソシオ・エンジン・プロジェクト）：ミクロ行動把握による高齢者の福祉向上への活用と UAV連携の検討，令和 3-4年度（代表）

倉田　洋平 Yohei KURATA

科研費基盤研究（C）「膨大なツイートから解き明かす種々の旅のリスクの地域性・時空間特性の分析」, 2021-2025（代表）

日立財団倉田奨励金「膨大な位置情報付きツイートから地域課題は見つかるか？」2022-2023（代表）

日原　勝也 Katsuya HIHARA

2020年度　研究分担者　基盤研究（B)「データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発」を分担者として獲得。継続中

2019年度　科研費　研究代表者（若手）「観光振興主体・空港・航空会社間のﾘｽｸｼｪｱﾘﾝｸﾞ・ﾒｶﾆｽﾞﾑに関する研究」を獲得。継続中

2016年度　研究代表・基盤研究（C），「リスク分配契約に関する研究－航空分野を中心に」,
研究代表者 日原勝也

2013年度　研究代表・基盤研究（C），「航空分野におけるリスク分配メカニズム（契約）に関する研究」, 研究代表者 日原勝也

Wu Lingling Wu Lingling

東京都立大学傾斜的研究費（部局分）若手奨励経費：旅行制約における観光代替品としてバーチャルリアリティ（VR）を開発に関する研究、2021（代表）

05 学生教育
Student education

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

5-1. 所属学生

2020年度は学部生129名、大学院生43名の計172名（うち留学生は18名）が在籍した。

学部生

1年30名、2年31名、3年34名、4年34名が当学科に在籍した。

本年度進級した3年生の分属前の所属については、8名が市環境学 地理環境コース、1名が市環境学　市基盤系、7名が市教養学人文社会系、1名が市教養学経営学系、3名が市教養学理工学系、2名が編入学である 。

博士前期課程（修士課程）

修士課程1年17名うち留学生4名、修士課程2年15名うち留学生4名が当学域に在籍した。

博士後期課程（博士課程）

博士課程1年 4名うち 3名、博士課程 2年 8名うち留学生 4名、博士課程 3年 9名うち留学生 3名が当学域に在籍した。

留学生

右表のとおり、留学生は修士課程8名、博士課程10名の計24名である。出身国は表のとおりである。

留学生出身国内訳

出身国	修士課程	博士課程	合計
インドネシア	1	2	3
中国	4	1	5
マレーシア	2	3	5
バングラディシュ	3	5	8
モンゴル	1	0	1
ネパール	0	0	0
ベトナム	0	1	1

5-2. 研究室への配属（指導教官）

4年以上77名の学生の配属先研究室（指導教官）は右表のとおりである。

各研究室所属の学生数

領域	研究室	卒論生	修士課程	博士課程	計
自然	菊地　俊夫	0	0	1	1
自然	沼田　真也	3	4	7	14
自然	大澤　剛士	5	2	2	9
計画	清水　哲夫	3	5	4	12
計画	川原　晋	4	2	2	8
計画	岡村　祐	3	5	2	10
計画	野田　満	1	0	0	1
行動経営	倉田　陽平	3	1	0	4
行動経営	日原　勝也	4	2	0	6
行動経営	Wu Lingling	3	1	1	5
行動経営	小笠原　悠	1	0	0	1

5-3. 学位論文

博士論文

所定の審査を受け、下表に示す5名の博士論文が合格した.

氏名	論文タイトル	主査
Hasan Bin Mohamed Zakaria	Consuming behavior of foreign visitors in a nature-based destination	沼田　真也
Hossain Mohammad Ismail	Effects of land-related policies on land use and land cover change in a protected area: the case of Rema-Kalenga Wildlife Sanctuary, Bangladesh	沼田　真也
岡野　雄気	アウトドア・アクティビティ目的地への移住における観光経験の役割の検討：長期的視座を持った定性的手法及び居住環境選好調査による二段階アプローチ	Wu LingLing
Pham Duy Hoang	A Study on Transport Gap Indicator for Transport Planning in Rural Tourism Areas under Perspective of Mobility as a Service - A case in Hokuto City, Yamanashi Prefecture, Japan -	清水　哲夫
山嵜　一也	「五輪景観」を創出・発信する競技会場の計画手法に関する研究－ロンドン 2012年大会を事例として－	岡村　祐

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

5-3. 学位論文

修士論文

所定の審査を受け、下表に示す 15名の修士論文が合格した.

氏名	論文タイトル	主査
五十嵐　公太	洪水による攪乱の相互作用が河川植物の多様性に与える影響	大澤　剛士
江口　碧	農業統計データと農家調査からみたマレーシアのドリアン生産量に関する研究	沼田　真也
河内　慶子	日本における MaaS実証事業の特徴 ～都市特性とサービス形態から見た今後の展開への示唆～	清水　哲夫
小早川　駿	観光地における COVID-19の影響の定量的評価 -人流、消費、宿泊のビッグデータを組み合わせた分析の試行 -	清水　哲夫
佐々木　翔哉	都市公園におけるタヌキの資源利用とアライグマとの種間関係	大澤　剛士
朱　逸雯	訪日中国人の旅行ブログのテキストマイニングで探る訪日中国人の温泉体験への関心と評価	倉田　陽平
鈴木　美樹	トラベル・キャリアを経た中高年の旅行動機は高次化するか?	倉田　陽平
谷藤　健太	エスニックタウンにおける地域資源と地域共生イベントとの関係	岡村　祐
手代木　茜	水産業を資源とする観光事業の成立経緯とその展開に関する研究 -東日本大震災の被災地・宮城県南三陸町を事例に -	岡村　祐
野田　瑞希	イギリスの歴史的観光地バースの文化層序に関する地理学的研究	仁平　尊明
狭間　辰之	離島高校における地域学習教育の題材としての観光の有用性	川原　晋
園木　優美子	歴史的町並み地区におけるまちづくり団体の古民家保全活動に起因する移住・定住の実態 -福岡県八女市八女福島地区を対象として -	岡村　祐
張　婷	レストランのオンラインレビューに見られる訪日中国人旅行者の食体験の分析：ビッグデータからもたらされる観光地域マーケティングへの示唆	清水　哲夫
Nur Qistina Binti Abd Rashid	新型コロナウイルス感染症パンデミックがマレーシア人の自然への訪問に与える影響	沼田　真也
羅　楽	心理的距離が観光地イメージに与える影響に関する研究	Wu LingLing

5-3. 学位論文

卒業論文

所定の審査を受け、下表に示す 15名が卒業論文を提出した

氏名	論文タイトル	主査
鈴木　陸哉	企業誘致事業における移転企業の地域への定着と従業者の地域への定住に関する研究 -南房総市における遊休施設を活用した企業誘致事業に注目して -	岡村　祐
其田　梨花子	都市に有利な形質の検討	大澤　剛士
千葉　優美子	住民関与の動態とまちづくり活動への展開から見るアーティスト・イン・レジデンスの今日的意義 -アーティスト滞在期間外における住民への取り組みに着目して -	野田　満
谷藤　優成	代行旅行アプリの開発とその評価	倉田　陽平
山﨑　芽生	登山計画書の提出率に影響する要因：南アルプス登山者を事例に	沼田　真也
代永　優花	公立美術館の価値 -観光との関連性を検討する -	日原　勝也
宮内　一輝	校歌を用いた文化的サービスの定量 -八王子市内の小中学校を例に -	大澤　剛士
矢澤　拓哉	アンテナショップイベントによる地方と首都圏住民との継続的交流方策に関する研究 -関係人口創出の拠点としてのアンテナショップの役割に着目して -	川原　晋
杉野　裕彦	独立リーグが創出する経済波及効果について	日原　勝也
森崎　美月	海水浴客等が参加する津波避難訓練における関係団体の連携体制の構築方法	岡村　祐
木村　美玖	新幹線延伸地域の都市間交通機関分担の分析	清水　哲夫
藤井　万瑠水	都立公園におけるカシノナガキクイムシの加害様式	大澤　剛士
大久保　翔太	動物に対する認識や好みが野外アクティビティーに対する態度に与える影響	沼田　真也
狩野　佑季	地域経済の非対称性に対する観光の効果について	日原　勝也
皆藤　慶虎	ライフステージに着目した関係人口による地域づくり活動の実態把握 -国土交通省「地域との関わりについてのアンケート」調査データを活用して -	川原　晋
雀部　爽太	地方私鉄における観光列車の属性別価値についての基礎的研究	清水　哲夫
東原　実咲	日本の国内観光需要に影響を与える経済的要因の推定	Wu LingLing
齊藤　凌太	野生動物観光で人々が期待する体験に関する研究：エンダウ・ロンピン国立公園の野生動物を事例に	沼田　真也

5-3. 学位論文

卒業論文

氏名	論文タイトル	主査
猪口　あゆな	訪問回避意向モデリングのマルチエージェントシミュレーションによる検討	倉田　陽平
田中　君明	盛夏の温度低減に貢献しうる樹冠表面温度に影響する要因の検討	大澤　剛士
平野　里穂	我が国における卸売市場の一般開放活動に関する研究	岡村　祐
小澤　萌子	全国市町村の行政視察受入の概要把握と有料化や地域内飲食と宿泊の条件付与の効果	川原　晋
安藤　光佑	離散選択実験による大学生の自由裁量支出と支出行動の洞察	日原　勝也
伏原　穂高	経路検索データを活用した自転車関連計画・施策の評価	清水　哲夫
奥田　怜美	テーマパークでのアトラクションの入れ替えに対する人々の反応に関する研究	Wu LingLing
近藤　佳里奈	温泉地における規制外景観構成要素としての共通アイテム設置に関する研究	川原　晋
廣瀬　絢理	国立公園の管理におけるトップダウンとボトムアップ	大澤　剛士
川嶌　喜樹	新型コロナウイルス流行下における GoTo トラベル事業が観光客数回復過程に及ぼした影響	Wu LingLing
堀　健一朗	現地に行かない仮想的な観光体験と体験者の経験・属性による比較	倉田　陽平
那珂　知美	国産蜂蜜の生産量に関する研究	沼田　真也
西村　憲人	スタンプラリー支援システム (電子スタンプラリーメーカー)の開発と評価	倉田　陽平

06 社会貢献
Social contributions

6-1. 自然環境マネジメント領域

沼田　真也　Shinya NUMATA

- 日本生態学会キャリア支援専門委員会　委員（2020-）
- 文部科学省　科学技術・学術政策研究所　科学技術予測センター　専門調査員　2014年 4月～
- 八王子市環境審議会　委員・会長　2020年 4月～
- 多摩市みどりと環境審議会　委員・会長　2020年 12月～
- その他、審査、アドバイス等

仁平　尊明　Takaaki NIHEI

- 北海道地理学会，編集委員会幹事
- 地理空間学会，評議員
- 地理空間学会，編集委員会委員
- 地理空間学会，学会賞選考委員会委員
- 人文地理学会，代議員
- 日本地理学会，代議員
- 日本地理学会，学会賞受賞候補者選考委員
- Referee for a postdoctoral application which is being made to the Irish Research Council

高木　悦郎　Etsuro TAKAGI

- Journal of Forest Research,　Editor
  日本森林学会　JFR論文賞評価委員

坂本　優紀　Yuki SAKAMOTO

- 日本地理学会　総務専門委員会
- 地理空間学会　集会委員会

06 社会貢献
Social contributions

6-2. 地域計画・マネジメント領域

清水　哲夫 Shimizu Tetsuo

学会活動
- 土木学会国際センター国際交流グループミャンマーグループリーダー
- 交通工学研究会研究委員会技術顧問
- 交通工学研究会査読委員会委員
- 交通工学研究会第一学術小委員会委員
- 日本観光研究学会理事

学外活動
- 公益社団法人日本観光振興協会調査研究部門総合調査研究所所長兼日本観光振興アカデミー学長

政府・自治体・民間企業等委員会活動
- 観光庁・観光統計の整備に関する検討懇談会委員
- 観光庁・観光圏整備に関する検討会委員
- 観光庁・インバウンド受入実証事業に係る審査委員会委員
- 観光庁・地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進事業企画競争委員会委員
- 観光庁・地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業選定委員会座長
- 観光庁・地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業選定委員会委員
- 観光庁・観光地等における効果的な受入環境整備に関する検討委員会委員
- 国土交通省道路局・地域道路経済戦略調査研究会委員
- 国土交通省総合政策局・インフラツーリズム有識者懇談会座長
- 国土交通省関東地方整備局・首都圏広域地方計画中間評価アドバイザー
- ツーリズム EXPOジャパン 2022実行委員会委員兼国際会議部会長 全国観光圏推進協議会アドバイザー
- 東京都・南大沢スマートシティ協議会座長
- 東京都・利用者の視点に立った東京の交通戦略推進会議委員兼水辺空間活用ワーキング主査
- 東京都・三学会合同による TDM推進に関する検討会委員
- 東京都・都営交通の事業環境の動向等に関するアドバイザー
- 東京都・多摩都市モノレール町田方面延伸ルート検討委員会委員
- 広島県・宮島口における円滑な駐車及び交通誘導検討会委員
- 大田区・交通政策基本計画推進協議会副会長
- 町田市・交通安全行動計画策定および推進委員会委員長
- 立川市・第三次観光振興計画協議会委員
- (一財)アジア太平洋観光交流センター・サステナブルツーリズム推進センター委員
- (一財)関西観光本部・新グランドデザイン有識者会議委員
- (一社)八ヶ岳ツーリズムマネジメント・ブランド戦略会議およびインバウンド・二次交通検討会議アドバイザー
- (公財)佐世保観光コンベンション協会・佐世保・小値賀観光圏アドバイザー
- (一財)運輸総合研究所・持続可能な観光地域経営の推進に関する調査検討委員会座長代理
- (公社)日本道路協会・交通工学委員会交通安全小委員会道路標識WG委員
- (一財)運輸総合研究所・ポストコロナの公共交通のあり方検討委員会地域間交通小委員会委員
- (一財)国土計画協会・地域連携推進団体協議会アドバイザー
- (株)首都高速道路・首都高の料金に関する懇談会委員
- (株)首都高速道路・首都高交通量推計手法検討委員会幹事長兼委員

講演・研修講師等
- 国土交通大学校専門課程「インフラツーリズム研修」講師, 2021年 7月 13日
- 全国観光圏推進協議会「観光地地域づくりマネージャー研修」講師, 2021年 7月 12日, 9月 6日, 12月 6日
- 福岡県「ふくおか観光地域づくり共創塾観光データ分析コース」講師, 2021年 8月 24日
- 東京都立大学・(公社)日本観光振興協会「観光ビジネスソリューションセミナー」オーガナイザー, 2021年 11月 8, 9日
- 金沢大学「先端観光科学研究センター・キックオフシンポジウム」基調講演・パネリスト, 2021年 11月 21日
- 国土交通大学校専門課程「総合交通体系（地域モビリティ戦略）研修」講師, 2021年 11月 30日
- (公社)日本観光振興協会「日本の観光再生シンポジウム」パネルディスカッションコーデティネーター, 2021年 12月 2日
- 第 36回日本観光研究学会全国大会「日本観光振興協会と日本観光研究学会の連携事業報告」, 2021年 12月 4日
- 観光庁「観光地域づくりマネージャー認定研修」コーディネーター・講師, 2022年 1月 17, 18, 31日, 2月 1日
- (一社)八ケ岳ツーリズムマネジメント「第 4回感染症対策ワークショップ～持続可能な観光地域づくりを目指した今後のコロナ対策～選ばれる地域を目指して」パネリスト, 2022年 2月 14日
- 東京都産業労働局観光部受入環境課「2021年度観光経営人材育成講座」オーガナイザー・講師, 2022年 2月 28日, 3月 1, 7, 8日

川原　晋 Susumu KAWAHARA

学会活動等
- 日本建築学会 都市計画本委員会「持続可能な観光地形成小委員会」幹事
- 公益財団法人日本都市センター「都市自治体におけるツーリズム行政に関する研究会」座長
- 日本観光振興協会＋日本観光研究学会「観光分野における新技術対応とその地域展開研究会」委員

行政委員会委員等
- 横浜市 地域まちづくり推進委員会 まち普請事業部会 委員
- 観光庁「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証調査」有識者委員会 委員
- 国土交通省 都市局公園緑地・景観課「今後の景観まちづくりのあり方検討ワーキンググループ」 委員
- 藤沢市 都市景観アドバイザー（藤沢市計画建築部景観課）
- 八王子 市景観審議会委員（八王子市まちなみ景観課）
- 同・協議審査専門部会委員
- 同・景観アドバイザー
- 町田市 観光まちづくり推進委員会 委員
- 箱根町 史跡箱根旧街道保存整備基本計画策定委員会 委員

市民まちづくり
- 一般社団法人　エリアマネジメント南山　理事　（東京都稲城市内）
- 一般社団法人 大田クリエイティブタウンセンター理事　（東京都大田区内）

06 社会貢献
Social contributions

岡村　祐　Yu OKAMURA

講師・講演
- （非常勤講師）駒澤大学「現代社会と都市論Ⅱ」
- （講師）東京都立大学オープンユニバーシティ「観光地域づくり最前線」2022/2/15実施
- （講師）都立科学技術高校「短期集中講座」講師 2022/3/22実施

自治体の委員会等
- 八王子市 都市公園指定管理者選定委員会委員, 2021.04-
- 東京都都市整備局 令和４年度南大沢スマートシティ支援業務委託技術審査委員会, 2021.12-2022.03
- 東京都デジタルサービス局 令和４年度西新宿スマートシティプロジェクト支援業務委託に係る技術審査委員会特別委員, 2021.12-2022.03
- 武蔵村山市 まちづくり基本方針策定委員会委員, 2020.11～
- 東京都都市整備局 南大沢スマートシティ協議会委員、まちの賑わい部会部会長, 2020.10～
- 東京都調布市 都市計画審議会委員, 2016.06～
- 山梨県韮崎市 史跡新府城跡保存整備委員会委員, 2013.04～
- 神奈川県茅ヶ崎市 景観アドバイザー（神奈川県茅ヶ崎市）, 2005.11～

学会活動
- 日本建築学会（都市計画本委員会委員、地域観光プラニング小委員会委員主査）
- 日本観光研究学会（理事、学術委員会委員）
- 日本都市計画学会
- 日本造園学会
- 日本イコモス国内委員会

その他
- NPO法人アーバンデザインセンター・茅ヶ崎 副理事長
- 一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター 代表副理事
- （イベント主催）「第 11回おおたオープンファクトリー」, おおたオープンファクトリー実行員会主催, 2021年 11月 26-27日
- （取材）「おおたオープンファクトリー」の取り組み NHK WORLD の番組「TOKYO EYE 2020」で紹介
- （取材）東京都立大学公式 WEBマガジン「メトロノワ」で、主担当科目「観光科学プロジェクト演習Ⅱ」が紹介
- （記事掲載）「おおたオープンファクトリー」の取り組みが、令和３年度「観光白書」に掲載

野田　満　Mitsuru NODA

学会活動
- 日本建築学会農村計画本委員会 幹事
- 日本建築学会農村計画委員会 農村地域づくり小委員会 委員
- 日本建築学会論文集編集委員会 委員
- 日本建築学会関東支部農村建築専門研究委員会 主査
- 日本建築学会関東支部研究運営委員会 委員
- 農村計画学会編集委員会 委員

社会活動
- 兵庫県地域再生アドバイザー
- 兵庫県洲本市地域おこしマイスター

社会活動（講演等）
- 野田満（パネリスト）：外部人材 /関係人口 -政策的ブームを超えて: 農村計画学会 40周年記念事業連続セミナー、2021.06.21
- 野田満（コーディネーター）：限界集落座談会「なぜ竹原は限界を突破できたのか」、令和 3年度地方創生実践塾、兵庫県洲本市、2021.11.05
- 野田満（コーディネーター）：ボクらの漁村ミライ図、漁村展「青の造形」、三重県鳥羽市、2021.11.20
- 野田満（コーディネーター）：漁村の魅力 -見つけ方 /活かし方 /残し方、漁村展「青の造形」、三重県鳥羽市、2021.11.20
- 野田満（コーディネーター）：兵庫県地域おこし協力隊ネットワークフォーラム、兵庫県神戸市、2022.03.18

大平　悠季　Yuki OHIRA

- 鳥取県景観審議会　委員
- 八王子市開発審査会　委員

平田　徳恵　Norie HIRATA

- 日本建築学会 住まい・まちづくり支援建築会議 運営委員会委員・情報事業部会（幹事）
- 八王子市まちづくりアドバイザー
- 東京都立大学オープンユニバーシティ講師
- 武蔵野大学　基礎セルフデベロップメント人間・環境分野　非常勤講師

06 社会貢献
Social contributions

6-3. 行動経営科学領域

相原　健郎 Kenro AIHARA

- ACM UMAP Program Committee
- 米沢市 アドバイザー
- 南大沢スマートシティ協議会 アドバイザー

倉田　洋平 Yohei KURATA

- 観光情報学会理事
- 神奈川県国際文化観光局観光課 令和 4年度観光動態分析ツール提供業務委託公募型プロポーザル方式審査会委員
- 東京都都民安全推進本部「スマホ・タブレットを活用した体験型自転車安全教育アプリケーションの構築及び運用等委託」技術審査委員会特別委員
- 観光庁 来訪意欲を増進させるためのオンライン技術活用事業選定委員・同有識者会議委員
- 観光庁 これまでにない観光コンテンツやエリアマネジメントを創出・実現するデジタル技術の開発事業選定委員・同有識者会議委員

日原　勝也 Katsuya HIHARA

- 東京大学公共政策大学院（国際観光交通政策研究ユニット（ITTPU）の客員研究員として、交通・社会インフラを中心とする公共政策分野の大学院レベルの教育研究を支援・連携中
- 一般社団法人　航空イノベーション推進協議会　AIDA（代表理事：鈴木真二東大名誉教授）において、会員として、地域航空検討委員会、人材育成検討委員会の委員をと止め、我が国の航空輸送システムに関するイノベーション研究教員を支援中
- 多摩信用金庫を核として、シェアリングエコノミーについて勉強会を立ち上げ、関東経産局、八王子市、日野市、国分寺市、UR、富士通他の関係者と、観光による地域振興の研究を展開中。

Wu Lingling Wu Lingling

- Committee member to organize the 14th EASTS (Eastern Asia Society for Transportation Studies) International Conference.

07 受賞等
Awards, etc.

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

7-1. 自然環境マネジメント領域

氏名	論文タイトル
坂本　優紀	2021 年度日本地理学会賞（論文発信部門）、2022 年 3 月

7-2. 地域計画・マネジメント領域

氏名	論文タイトル
清水　哲夫	「地域モビリティの再構築（薫風社）」第 47 回交通図書賞，2022 年 3 月
川原　晋	2021年度 国土交通省 都市景観賞 優秀賞受賞　受賞対象「長門湯本温泉観光まちづくりプロジェクト」(川原は専門家メンバーとして参画), 2021.06
野田　満	東京都立大学都市環境学部リーディング・サイエンティスト、2022 年 1 月
大平　悠季	研究発表「注意機構を用いた Graph Convolutional Networks による短期的将来滞在人口数推定」に対する第 99 回研究会優秀論文, 授与機関:(一財) 情報処理学会 モバイルコンピューティングと新社会システム研究会，2021 年 5 月

観光を科学する
TOURISM SCIENCE

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

観光を科学する
TOURISM SCIENCE

東京都立大学 都市環境学部 観光科学科
東京都立大学大学院 都市環境科学研究科 観光科学域

2021 ANNUAL REPORT

http://www.comp.tmu.ac.jp/tourism/

編集・発行：東京都立大学 都市環境学部 観光学科
発行日：2022年4月1日

内容に関してのお問い合わせ
東京都立大学 都市環境学部 観光科学科
電話　　：042-677-2664
Eメール：tourism-admin-ml@ml.tmu.ac.jp